

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和7年7月21日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・地域DMO	
観光地域づくり法 人の名称	紀伊半島地域連携DMO（株式会社南紀白浜エアポート）	
マネジメント・マ ーケティング対象 とする区域	和歌山県紀南エリア（12市町村） (印南町、みなべ町、田辺市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太 地町、古座川町、北山村、串本町、新宮市)	
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町	
設立時期	2018年5月28日	
事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年間	
職員数	5人 内訳：常勤5人（正職員3名、出向等2、非常勤0人）	
代表者（トップ人 材：法人の取組に ついて対外的に最 終的に責任を負う 者） ※必ず記入するこ と	（氏名） 岡田 信一郎 (出身組織名) (株)南紀白浜エアポート	（株）南紀白浜エアポートの代表取締役社長。企業経 営・事業投資のプロとして20年以上の経験を持つ。会社設立以来、「空港型地方創生」というコ ンセプトのもと、地域のさまざまなパイプ役として地域の活性化を推進。
データ分析に基づ いたマーケティン グに関する責任者 (CMO：チー フ・マーケティン グ・オフィサー) ※必ず記入するこ と	（氏名） 森重 良太「専従」 (出身組織名) (株)南紀白浜エアポート	（株）南紀白浜エアポートの誘客・地域活性化室長。 誘客マーケティング・地域連携マネジメント・着 地型旅行事業（紀伊トラベル）を統括。企業経 営・地域経営・マーケティングのプロとして15 年以上の経験を持つ。当DMOの事務局長を兼ね、 各自治体・DMO・宿泊・交通・飲食・体験・一次 産業・IT企業・銀行・大学など地域の幅広い事業 者と日常的に連携して、データに基づくPDCAを 回しながら推進役・調整役を務める。
財務責任者 (CFO：チー フ・ファイナンシヤ ル・オフィサー) ※必ず記入するこ と	（氏名） 森重 良太「専従」 (出身組織名) (株)南紀白浜エアポート	（株）南紀白浜エアポートの誘客・地域活性化室長。 誘客マーケティング・地域連携マネジメント・着 地型旅行事業（紀伊トラベル）を統括。企業経 営・地域経営・マーケティングのプロとして15 年以上の経験を持つ。着地型旅行事業や地域商社 事業などの自主収益事業によるマネタイズおよび 事業戦略と一体となった財務・会計マネジメント により運営収支・財源確保を行う。

各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること	(氏名) 西川 明子「専従」 (出身組織名) (株)南紀白浜エアポート	(株)南紀白浜エアポートの誘客・地域活性化室の係長。和歌山県内の旅行代理店に長年勤務。旅行業務取扱管理者保有者。旅行商品の造成・プロモーション・販売を行う。
各部門（例：旅行商品の造成・販売）の責任者（専門人材）	(氏名) 萩原 亘「専従」 (出身組織名) (株)南紀白浜エアポート	(株)南紀白浜エアポートの誘客・地域活性化室の係主任。地元金融機関にて勤務後、当DMOに参画。旅行商品の造成・プロモーション・販売および観光統計やアンケート等の各種データの収集及び分析を行う。
各部門（例：旅行商品の造成・販売）の責任者（専門人材）	(氏名) 柳原 理穂「専従」 (出身組織名) (株)南紀白浜エアポート	(株)南紀白浜エアポートの誘客・地域活性化室で実務担当者として、観光統計やアンケート等の各種データの収集及び分析を行う。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	<p>◆ 対象エリア自治体 <担当部署名> 印南町企画産業課、みなべ町うめ課、田辺市観光振興課、白浜町観光課、上富田町振興課、すさみ町産業振興課、那智勝浦町観光企画課、太地町産業建設課、古座川町地域振興課、北山村地域事業課、串本町産業課、新宮市商工観光課 <役割> 市町村単位の施策連携・関係者調整、誘客プロモーション、受入環境整備</p> <p>◆ 和歌山県 <担当部署名> 港湾空港振興課、観光局（観光振興課、観光交流課） <役割> 県内広域における空港利用促進、誘客プロモーション、受入環境整備</p>	
連携する事業者名及び役割	<p>◆ 地域DMO <事業者名> 南紀白浜観光協会、田辺市熊野ツーリズムビューロー、那智勝浦観光機構 <役割> 誘客に係る地域マネジメント・マーケティング連携、対象市町村単位の施策連携・関係者調整、観光データ連携</p> <p>◆ 経済団体 <事業者名> 白浜町商工会、白浜温泉旅館協同組合 <役割> 誘客促進・イベント連携、情報収集・情報発信、受入体制整備、特産品開発、販売</p> <p>◆ 交通事業者 <事業者名> 日本航空株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、明光バス株式会社、熊野御</p>	

	<p>坊南海バス株式会社、株式会社 Traffic Comfort、大塔交通社、白浜第一交通株式会社、ニッポンレンタカーサービス株式会社</p> <p>◇ 事業連携パートナー</p> <p>◇ 産学金連携</p>																																																												
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	<p>【該当する登録要件】②</p> <p>②観光地域づくり法人が主導して行政や関係団体をメンバーとするワーキンググループなどの委員会等を設置</p> <p>（概要）</p> <p>当地域連携 DMO が主導して行政・関係団体をメンバーとする紀伊半島地域連携委員会を設置。DMO 活動の内容・成果・KPI 達成状況などについて年 1 回（決算後の 7 月）の報告会を開催して、広域連携する 12 市町村をはじめ、連携する 3 つの地域 DMO、地域が「売り」とする観光資源の関係者、宿泊・交通等の幅広い分野の関係団体の代表者とともに、持続可能で稼げる観光地域づくりに向けた多様な地域関係者の合意形成の仕組みを構築。</p> <p>また、各メンバーとは着地型旅行事業や地域磨き上げの実証実験などを通じて、宿泊・交通・飲食・体験・購買および農林水産・文化・歴史・スポーツ施設などへの送客や受入体制の磨き上げについて意見交換や事業連携について協議を日常的（週 3 回以上）に行っており、顧客目線での有機的な地域連携体制と合意形成に基づく PDCA サイクルを構築して当地域連携 DMO を運営。</p> <p>◇ 紀伊半島地域連携委員会の構成員</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>自治体</td> <td>印南町</td> <td>企画産業課</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自治体</td> <td>みなべ町</td> <td>うめ課</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>自治体</td> <td>田辺市</td> <td>観光振興課</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自治体</td> <td>白浜町</td> <td>観光課</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>自治体</td> <td>上富田町</td> <td>振興課</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>自治体</td> <td>すさみ町</td> <td>産業振興課</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>自治体</td> <td>那智勝浦町</td> <td>観光企画課</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>自治体</td> <td>太地町</td> <td>産業建設課</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自治体</td> <td>古座川町</td> <td>地域振興課</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>自治体</td> <td>北山村</td> <td>地域事業課</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>自治体</td> <td>串本町</td> <td>産業課</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>自治体</td> <td>新宮市</td> <td>商工観光課</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>地域 DMO</td> <td>田辺市熊野ツーリズムビューロー</td> <td>事務局長</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>地域 DMO</td> <td>南紀白浜観光協会</td> <td>事務局長</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>地域 DMO</td> <td>那智勝浦観光機構</td> <td>事務局長</td> </tr> </table>	1	自治体	印南町	企画産業課	2	自治体	みなべ町	うめ課	3	自治体	田辺市	観光振興課	4	自治体	白浜町	観光課	5	自治体	上富田町	振興課	6	自治体	すさみ町	産業振興課	7	自治体	那智勝浦町	観光企画課	8	自治体	太地町	産業建設課	9	自治体	古座川町	地域振興課	10	自治体	北山村	地域事業課	11	自治体	串本町	産業課	12	自治体	新宮市	商工観光課	13	地域 DMO	田辺市熊野ツーリズムビューロー	事務局長	14	地域 DMO	南紀白浜観光協会	事務局長	15	地域 DMO	那智勝浦観光機構	事務局長
1	自治体	印南町	企画産業課																																																										
2	自治体	みなべ町	うめ課																																																										
3	自治体	田辺市	観光振興課																																																										
4	自治体	白浜町	観光課																																																										
5	自治体	上富田町	振興課																																																										
6	自治体	すさみ町	産業振興課																																																										
7	自治体	那智勝浦町	観光企画課																																																										
8	自治体	太地町	産業建設課																																																										
9	自治体	古座川町	地域振興課																																																										
10	自治体	北山村	地域事業課																																																										
11	自治体	串本町	産業課																																																										
12	自治体	新宮市	商工観光課																																																										
13	地域 DMO	田辺市熊野ツーリズムビューロー	事務局長																																																										
14	地域 DMO	南紀白浜観光協会	事務局長																																																										
15	地域 DMO	那智勝浦観光機構	事務局長																																																										

	16	観光資源	アワーズ（アドベンチャーワールド）	代表取締役社長	
	17	宿泊	白浜館（ホテルシーモア）	代表取締役社長	
	18	交通	明光バス	代表取締役社長	
	19	事務局	紀伊半島地域連携 DMO	事務局長	
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組					
<p>地域住民や自治体・観光関連事業者への観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進・人材育成を目的としたセミナーやイベント、講演会・観光経営塾などを開催、その事務局や講師を務める</p> <p>＜実績＞</p> <p>■候補 DMO 登録前：</p> <ul style="list-style-type: none"> 2019年10月29日 紀州ビジネスクラブ@御坊「空港型地方創生：南紀白浜エアポートの取り組み」 2019年11月28~29日 南紀熊野観光塾「空港を起点とした南紀熊野の地域活性化とは？」 2020年1月16日 那智勝浦町ワークショップ「空港型地方創生：南紀白浜エアポートの取り組み」 2020年6月12日 南紀熊野創生機構「空港を起点した南紀熊野の活性化」 <p>■第1期：2020年10月～2021年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年11月3日 和歌山大学観光カリスマ講座@和歌山市「空港を起点とした地域活性化」 2020年11月4日 紀伊田辺ライオンズ「空港型地方創生の紹介」 2020年11月21日 たなべ未来創造塾 講師 2020年11月25~27日 南紀熊野観光塾 講師 2020年12月3日 和歌山大学「観光・地域づくり講座」講師 2020年12月21日 白浜商工会議所「空港型地方創生の紹介」 2021年3月7日 スーパーシティ住民説明会@すさみ町 2021年2~3月 関係人口創出に向けた副業セミナー計4回（2/24@新宮市、2/25@和歌山市、3/4@田辺市、3/5@和歌山市） 2020年7月～2021年3月（毎月開催 計9回） 和歌山/南紀白浜ビジョンミーティング（知事・町長から自治体・観光事業者・一般住民まで累計約1,000名が参加するタウンミーティング） <p>■第2期：2021年4月～2022年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年7月13日 ありだ広域交流協議会 地域マーケティング講座 講師 2021年11月20日 たなべ未来創造塾 講師 2021年12月18日 和歌山大学「熊野郷土学」 講師 2022年1月26日 秋津野ガルテン「ワーケーションを通じた地域活性化」 2021年4月～2022年3月（毎月開催 計12回） 和歌山/南紀白浜ビジョンミーティング（知事・町長から自治体・観光事業者・一般住民まで累計約2,000名が参加するタウンミーティング） <p>■第3期：2022年4月～2023年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年9月29日 たなべ未来創造塾 講師 2022年11月23日 ワーケーションコレクティブインパクト和歌山 講師 2023年2月2日 羽田4便化イベント 空港型地方創生の紹介 講師 2023年3月23日 和歌山イノベーションベース 講師 2023年3月28日 田辺市異業種交流会 講師 2022年4月～2023年3月（毎月開催 計12回） 和歌山/南紀白浜ビジョンミーティング（知事・町長から自治体・観光事業者・一般住民まで累計約2,500名が参加するタウンミーティング） <p>■第4期：2023年4月～2024年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 2023年5月12日 白浜さざなみ学級 講師 2023年6月26日 観光庁ワーケーション地域イベント 講師 					

	<ul style="list-style-type: none"> • 2023年9月6日 旧龍神村ワークーション勉強会 講師 • 2023年11月13日 高野山大学 講師 • 2023年11月20日 有田観光議員連盟ワークーション勉強会 講師 • 2023年12月11日 旧龍神村村 ドラゴンミュージアム利活用会① 講師 • 2024年2月16日 和歌山社労士会勉強会 講師 • 2024年2月26日 旧龍神村村 ドラゴンミュージアム利活用会② 講師 • 2023年4月～2024年3月（毎月開催 計12回） 和歌山/南紀白浜ビジョンミーティング（知事・町長から自治体・観光事業者・一般住民まで累計約3,000名が参加するタウンミーティング） <p>■第5期：2024年4月～2025年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2024年4月5日 白浜進出企業 ワークーション紹介 講師 • 2024年6月4日 神島高校 地域課題解決ビジネス神島塾 講師 • 2024年7月1日 紀陽銀行 若手向け地域課題解決研修 講師 • 2024年7月10日 JR西日本 地域課題解決共創プログラム 講師 • 2024年8月20日 和歌山大学 観光地実習プログラム 講師 • 2024年9月30日 上富田町 地域ビジョン策定ワークショップ① 講師 • 2024年10月21日 和歌山県 地域コーディネーター養成講座 講師 • 2024年11月2日 田辺市 たなべ未来創造塾 講師 • 2024年11月11日 和歌山大学 観光と都市農村交流 講師 • 2024年11月17日 和歌山大学 CTR国際シンポジウム白浜 講師 • 2025年1月21日 上富田町 地域ビジョン策定ワークショップ② 講師 • 2025年1月31日 白浜テーマパーク 実践型マーケティング講座① 講師 • 2025年2月12日 総務省 テレワークワンストップサポート事業 講師 • 2025年3月10日 和歌山大学 社会インフォマティクス学環 講師 • 2025年3月11日 白浜テーマパーク 実践型マーケティング講座② 講師 				
法人のこれまでの活動実績	<p>【活動の概要】</p> <table border="1" data-bbox="430 1170 1399 1945"> <thead> <tr> <th data-bbox="430 1170 616 1215">事業</th><th data-bbox="616 1170 1399 1215">実施概要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="430 1215 616 1945">情報発信・プロモーション</td><td data-bbox="616 1215 1399 1945"> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地元自治体（特に田辺市・白浜町）と連携した首都圏・東北でのPR活動（有楽町駅や銀座駅での共同プロモーションイベントなど） ➢ 県観光部門や航空会社・宿泊施設と連携したプロモーション活動 ➢ 海外旅行代理店・メディアや首都圏旅行代理店に対するFAMトリップ受入（国内代理店、イギリス、ロシアなど） ➢ 海外現地の旅行博参加や現地旅行代理店向けの商談会（ロシアなど） ➢ 首都圏や関西圏を中心に、地域外の自治体・企業・観光事業者・経済団体や地域イベント・観光カンファレンスでの地域の魅力と取り組み発信に関する講演 ➢ 首都圏や関西圏を中心に地域外の大学等での講師 <p>＜実績例＞</p> <p>①観光誘致に関する情報発信・プロモーション</p> <p>■候補DMO登録前：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2019年7月6～9日 イギリス訪日エージェント向け和歌山FAMツアー 開催 </td></tr> </tbody> </table>	事業	実施概要	情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 地元自治体（特に田辺市・白浜町）と連携した首都圏・東北でのPR活動（有楽町駅や銀座駅での共同プロモーションイベントなど） ➢ 県観光部門や航空会社・宿泊施設と連携したプロモーション活動 ➢ 海外旅行代理店・メディアや首都圏旅行代理店に対するFAMトリップ受入（国内代理店、イギリス、ロシアなど） ➢ 海外現地の旅行博参加や現地旅行代理店向けの商談会（ロシアなど） ➢ 首都圏や関西圏を中心に、地域外の自治体・企業・観光事業者・経済団体や地域イベント・観光カンファレンスでの地域の魅力と取り組み発信に関する講演 ➢ 首都圏や関西圏を中心に地域外の大学等での講師 <p>＜実績例＞</p> <p>①観光誘致に関する情報発信・プロモーション</p> <p>■候補DMO登録前：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2019年7月6～9日 イギリス訪日エージェント向け和歌山FAMツアー 開催
事業	実施概要				
情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 地元自治体（特に田辺市・白浜町）と連携した首都圏・東北でのPR活動（有楽町駅や銀座駅での共同プロモーションイベントなど） ➢ 県観光部門や航空会社・宿泊施設と連携したプロモーション活動 ➢ 海外旅行代理店・メディアや首都圏旅行代理店に対するFAMトリップ受入（国内代理店、イギリス、ロシアなど） ➢ 海外現地の旅行博参加や現地旅行代理店向けの商談会（ロシアなど） ➢ 首都圏や関西圏を中心に、地域外の自治体・企業・観光事業者・経済団体や地域イベント・観光カンファレンスでの地域の魅力と取り組み発信に関する講演 ➢ 首都圏や関西圏を中心に地域外の大学等での講師 <p>＜実績例＞</p> <p>①観光誘致に関する情報発信・プロモーション</p> <p>■候補DMO登録前：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2019年7月6～9日 イギリス訪日エージェント向け和歌山FAMツアー 開催 				

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年9月21～22日 東京有楽町駅前での田辺市・田辺市熊野ツーリズムビューロー・白浜町・南紀白浜観光局・JALと連携した和歌山プロモーション開催 ・ 2019年9月29日～10月2日 露ウラジオストク・ハバロフスクにおける富裕層旅行代理店向け和歌山旅行博開催 (JNTOやJALモスクワ支店とも連携) ・ 2020年2月20日 サービス産業次世代技術EXPO講演 ・ 2020年2月27日 関東沖縄観光連絡協議会 講演 <p>■第1期：2020年10月～2021年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年2月1日 日経地方創生フォーラム 講演 ・ 2021年2月17日 国際ホテルレストランショー 講演 ・ 2021年3月5日 紀南アートウィーク セミナー 共催 ・ 2021年3月25日 やまとごころ観光セミナー 講演 <p>■第2期：2021年4月～2022年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年4月2日 日本航空協会 講演 ・ 2021年7月14日 近畿経済産業局 講演 ・ 2021年9月13日 日経SDGs フェス 講演 ・ 2021年10月2日 大阪観光大学リカレント教育 講師 ・ 2021年11月3日 流通科学大学 講師 ・ 2021年11月11日 京都外国語大学 講師 ・ 2021年11月19日 RisorTech 沖縄 講演 ・ 2021年11月26日 大阪観光大学リカレント教育 講師 ・ 2022年2月25日 日本地域国際化推進機構 講演 ・ 2022年2月25日 京都外国語大学 講師 <p>■第3期：2022年4月～2023年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年5月6日 JPI エグゼクティブセミナー 講演 ・ 2022年5月20～21日 南紀熊野プロモーション事業 (動画撮影・記事作成・Webサイト構築) ・ 2022年7月1日 愛媛県国際観光 講演 ・ 2022年7月8日 SDGs デジタル社会推進機構 講演 ・ 2022年7月13日 タイ観光庁大阪事務所 地域紹介 ・ 2022年8月16日 地域活性化センター 講演・取材 ・ 2022年9月5日 JICA (国際協力機構) 講演 ・ 2022年10月6～7日 読売旅行幹部 現地視察ツアー ・ 2022年12月22日 京都外国語大学 講演 ・ 2023年1月27日 京成グループ 講演 ・ 2023年1月27日 長崎国際大学 講演 ・ 2023年3月4日 田辺人100人ミートアップ@東京 <p>■第4期：2023年4月～2024年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年4月7日 中部経済同友会視察会 講演 ・ 2023年5月9日 東京電力・NEC 観光DX勉強会 講演 ・ 2023年8月21日 関西商業教育研究大会 講演 ・ 2024年2月7日 林野庁森林サービス産業商談会 講演 ・ 2023年10月20日 JICA研修事業 講師 ・ 2023年11月2日 高千穂ビジョンミーティング 講師 ・ 2023年12月1日 NTTコムウェア 観光DX視察 講演 ・ 2023年12月8日 福島空港有識者懇談会 講演 ・ 2023年12月21日 京都外国語大学 講師 ・ 2024年1月31日 福島自民党県議視察 講演 ・ 2024年2月21日 近畿大学インターンシップ受入 講演
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年 3 月 4 日 兵庫県高校教育研究大会 講演 ・ 2024 年 3 月 11 日 NEC リテール部門 観光 DX 視察 講演 <p>■第 5 期：2024 年 4 月～2025 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年 4 月 16 日 LIMNO 観光 DX 講演 ・ 2024 年 5 月 18 日 パリ日本文化会館 和歌山紹介 講演 ・ 2024 年 6 月 3 日 NES 労働組合 地方創生研修 講演 ・ 2024 年 7 月 13 日 近畿大学 地域課題プログラム 講演 ・ 2024 年 7 月 18 日 山口県産業観光委員会 観光 DX 講演 ・ 2024 年 8 月 19 日 泉佐野市 新入職員研修① 講師 ・ 2024 年 8 月 27 日 立命館大学 地方創生 講演 ・ 2024 年 8 月 29 日 泉佐野市 新入職員研修② 講師 ・ 2024 年 9 月 12 日 秋田銀行 地方創生 講演 ・ 2024 年 9 月 20 日 JICA 研修事業 講師 ・ 2024 年 9 月 27 日 泉佐野市 新入職員研修③ 講師 ・ 2024 年 9 月 27 日 泉佐野市 幹部・管理職研修 講師 ・ 2024 年 10 月 7 日 日向市 地域連携 DMO 紹介① 講師 ・ 2024 年 10 月 8 日 日向市 地域ビジョン策定 講師 ・ 2024 年 10 月 29 日 日向市 地域連携 DMO 紹介② 講師 ・ 2024 年 11 月 8 日 ODS 観光 DX 紹介 講師 ・ 2024 年 11 月 22 日 山口県 中山間活性化 講演 ・ 2024 年 12 月 5 日 熊本空港 地域連携 DMO 紹介 講師 ・ 2024 年 12 月 12 日 福知山公立大学 地方創生 講演 ・ 2024 年 12 月 14 日 串本ロケット 特別観覧ツアー ・ 2024 年 12 月 25 日 日向市 地域連携 DMO 紹介③ 講師 ・ 2025 年 1 月 28 日 東北 4 県地銀商談会 地方創生 講演 ・ 2025 年 2 月 19 日 一橋大学 MBA 地域づくり研修 講演 ・ 2025 年 2 月 28 日 NEC 若手観光 DX 研修 講演 <p><u>②ワーケーション誘致に関する情報発信・プロモーション</u></p> <p>■候補 DMO 登録前：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020 年 7 月 10 日 新温泉町 講演 ・ 2020 年 7 月 15 日 パソナ JouHub 講演 ・ 2020 年 8 月 19 日 JTB 総合研究所 講演 ・ 2020 年 8 月 26 日 Kabuk Style (旅サブスク HafH) 講演 ・ 2020 年 9 月 4 日 JTB 東京中央支店 講演 <p>■第 1 期：2020 年 10 月～2021 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020 年 10 月 9 日 経産省地域キーパーソン会議 講演 ・ 2020 年 12 月 16 日 経団連/日観振ワーケーション 講演 ・ 2020 年 10 月 22～23 日 ワーケーションリーダーズサミット 登壇 ・ 2020 年 11 月 12～13 日 和歌山オンラインワーケーションセミナー 主催 ・ 2020 年 12 月 16 日 日経ワーケーション会議 登壇 ・ 2020 年 12 月 23 日 パソナ JobHub セミナー登壇 ・ 2021 年 1 月 20 日 伊東市ワーケーション セミナー講師 ・ 2021 年 2 月 18 日 東北経済産業局 ワーケーションセミナー登壇 <p>■第 2 期：2021 年 4 月～2022 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年 6 月 14 日 日本ワーケーション協会 講演 ・ 2021 年 11 月 25 日 岡山経済研究所 講演
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年 12 月 7 日 沖縄内閣府 講演 ・ 2021 年 12 月 17 日 茨城県営業戦略部 講演 ・ 2022 年 1 月 5 日 群馬県観光魅力創出課 講演 ・ 2022 年 1 月 13 日 滋賀県旅館組合 講演 ・ 2022 年 1 月 14 日 内閣官房 新たな資本主義 講演 ・ 2022 年 1 月 17 日 日本旅行神戸支店 講演 ・ 2022 年 2 月 9 日 海邦総研 講演 ・ 2022 年 2 月 22 日 未来工学研究所 講演 ・ 2022 年 3 月 11 日 南あわじ市 講演 ・ 2022 年 3 月 17 日 京都大学経営管理大学院 講演 <p>■ 第 3 期 : 2022 年 4 月～2023 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022 年 4 月 4 日 日本空港ビルディング 講演 ・ 2022 年 4 月 4 日 沖縄建設事業者 講演 ・ 2022 年 6 月 2 日 情報サービス産業協会 講演 ・ 2022 年 6 月 29 日 宮城県議連合会 講演 ・ 2022 年 7 月 21 日 滋賀県栗東市商工会 講演 ・ 2022 年 9 月 9 日 鹿島アントラーズ・メルカリ 講演 ・ 2022 年 12 月 20 日 岡山ワーケーション検討会 講演 ・ 2023 年 1 月 13 日 宮崎県高千穂町 講演 ・ 2023 年 1 月 31 日 岡山県玉野市 講演 ・ 2023 年 2 月 6 日 山梨県二拠点移住促進 講演 ・ 2023 年 2 月 20 日 山梨中央銀行 講演 ・ 2023 年 2 月 22 日 会津若松ワーケーション協議会 講演 ・ 2023 年 2 月 28 日 静岡県熱海市 講演 ・ 2023 年 3 月 17 日 秋田県ワーケーション会議 講演 <p>■ 第 4 期 : 2022 年 4 月～2023 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023 年 5 月 19 日 パソナ JOBHUB 越境セミナー 講演 ・ 2023 年 7 月 20 日 JTB 名古屋ワーケーション視察 講演 ・ 2023 年 7 月 25 日 岡山県ワーケーション検討会① 講師 ・ 2023 年 7 月 28 日 山口県ワーケーションセミナー 講演 ・ 2023 年 8 月 2 日 環境省デコ活官民連携会議 講演 ・ 2023 年 9 月 4 日 会津若松ワーケーション視察 講演 ・ 2023 年 9 月 4 日 韓国釜山ワーケーション視察 講演 ・ 2023 年 9 月 20 日 韓国濟州ワーケーション視察 講演 ・ 2023 年 10 月 11 日 秋田県ワーケーション① 講師 ・ 2023 年 11 月 22 日 岡山県ワーケーション検討会②講師 ・ 2024 年 1 月 18 日 東京都ワーケーション視察 講演 ・ 2024 年 1 月 29 日 秋田県ワーケーション② 講師 ・ 2024 年 2 月 8 日 千葉県ワーケーション勉強会 講師 ・ 2024 年 2 月 14 日 岡山県ワーケーション検討会③ ・ 2024 年 2 月 17 日 茨城県ワーケーション視察 講演 ・ 2024 年 2 月 22 日 北海道ワーケーション勉強会 講演 ・ 2024 年 2 月 27 日 東京都ワーケーション勉強会 講演 ・ 2024 年 3 月 19 日 函館市ワーケーション視察 講演 <p>■ 第 5 期 : 2024 年 4 月～2025 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年 5 月 10 日 ウェルネスツーリズム EXPO 講演 ・ 2024 年 6 月 12 日 アイシン 課題解決プログラム 講演 ・ 2024 年 7 月 29 日 ANA 総研 ワーケーション研究 講演 ・ 2024 年 8 月 1 日 BioBeat 越境プログラム 講演
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年 9 月 3 日 ライフシフト大学 越境学習 講演 ・ 2024 年 9 月 9 日 みらいワークス 越境学習 講演 ・ 2024 年 9 月 24 日 秋田県 ワークーション① 講演 ・ 2024 年 9 月 24 日 JAL ワークスタイル研究会① 講演 ・ 2024 年 10 月 23 日 日本触媒 地域課題解決① 講師 ・ 2024 年 10 月 24 日 JAL ワークスタイル研究会② 講演 ・ 2024 年 11 月 13 日 北秋田市 ワークーション 講演 ・ 2024 年 12 月 10 日 日本触媒 地域課題解決② 講師 ・ 2024 年 12 月 10 日 リコー ワークーション 講師 ・ 2025 年 1 月 15 日 秋田県 ワークーション② 講演 ・ 2025 年 1 月 31 日 大手私鉄 6 社 ワークーション 講演 ・ 2025 年 3 月 3 日 千葉県 ワークーション 講演 <p><u>③SNS・プレスリリースによる広告宣伝・情報発信</u></p> <p>■候補 DMO 登録前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS (Instagram) による情報発信 計 45 件 ・ プレスリリースによる情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018 年 10 月 18 日 ウフルと IoT 活用の包括連携 ・ 2018 年 11 月 28 日 露ウラジオストク空港と戦略的協力の締結 ・ 2018 年 12 月 6 日 和歌山大学と産学連携 ・ 2018 年 12 月 13 日 NEC と顔認証おもてなしサービス ・ 2018 年 12 月 27 日 サイクリストに優しい空港認定 ・ 2019 年 1 月 30 日 空港手荷物配送サービス開始 ・ 2019 年 2 月 27 日 空港のバスターーミナル化 ・ 2019 年 4 月 1 日 明光バスと地域交通利便性向上 ・ 2019 年 4 月 4 日 ご当地アロマを使ったおもてなし ・ 2019 年 4 月 16 日 オリエンタルコンサルタンツと地域活性化に関する連携 ・ 2019 年 4 月 19 日 航空ショー室谷パイロットサイン会 ・ 2019 年 5 月 20 日 明光バス・JR 西日本と交通利便性に関する包括連携協定の手結 ・ 2019 年 7 月 1 日 花火大会の交通渋滞対策の実証 ・ 2019 年 7 月 30 日 空港レンタカーステーション開設 ・ 2019 年 8 月 1 日 DeNA 和歌山ゲームコラボ企画 ・ 2019 年 8 月 2 日 小型電動 EV 車レンタル事業開始 ・ 2019 年 8 月 5 日 顔認証おもてなしサービスに白浜観光協会が参画 (ビーチでの顔認証キャッシュレス決済サービス導入) ・ 2019 年 8 月 21 日 JAL 羽田-南紀白浜路線が機材大型化 (95 席から 165 席へ) ・ 2020 年 3 月 18 日 大阪方面への高速バス利便性向上 ・ 2020 年 5 月 11 日 空港に個室型ワークブースを設置 ・ 2020 年 6 月 3 日 和歌山まるごと抗ウイルス大作戦の開始 ・ 2020 年 9 月 4 日 顔認証おもてなしサービスに JAL が参画 (空港内の手荷物待ち時間表示、お見送り笑顔サイネージを設置) <p>■第 1 期：2020 年 10 月～2021 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS (Instagram) による情報発信 計 7 件
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレスリリースによる情報発信 ・ 2020 年 11 月 18 日 南紀白浜パンダバンブーEXPO 開催 ・ 2020 年 11 月 26 日 空港オンデマンドタクシー開始 ・ 2021 年 2 月 3 日 みらいワークスと地域副業を開始 ・ 2021 年 2 月 12 日 イノフィス・たがみと一次産業事業者向けマッスルスーツ販売を開始 ・ 2021 年 3 月 26 日 顔認証おもてなしサービスに混雑度表示や地域周遊用クーポン連携を導入 <p>■ 第 2 期 : 2021 年 4 月～2022 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS (Instagram) による情報発信 計 54 件 ・ プレスリリースによる情報発信 ・ 2021 年 6 月 22 日 和歌山ワーケーションのエビデンス取得（在宅ワークと比較した生産性や健康の向上効果） ・ 2021 年 7 月 30 日 地域の防災力強化に向けた協業開始 ・ 2021 年 12 月 10 日 空港ホップ×地ビールの醸造開始 <p>■ 第 3 期 : 2021 年 4 月～2022 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS (Instagram) による情報発信 計 12 件 ・ プレスリリースによる情報発信 ・ 2023 年 2 月 2 日 TGC WAKAYAMA 2023 by TOKYO GIRLS COLLECTION アフターイベント ～ギャルモデルとして大人気のゆうちゃみ・ゆいちゃみが遊びに来ます～ ・ 2023 年 2 月 21 日 ローカル線 × 地域課題解決を題材とした異業種交流型 / 越境学習プログラムの参加者を募集 <p>■ 第 4 期 : 2023 年 4 月～2024 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS (Instagram) による情報発信 計 31 件 ・ プレスリリースによる情報発信 1 件 ・ 2023 年 12 月 21 日 オンデマンドバスの実証運行を白浜町で開始します <p>■ 第 5 期 : 2024 年 4 月～2025 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS (Instagram) による情報発信 計 62 件 ・ プレスリリースによる情報発信 1 件 ・ 2024 年 9 月 19 日 白浜町でオンデマンドバスの実証運行を 10 月から開始 ・ 2024 年 12 月 19 日 関西学院大学総合政策学部と連携に関する基本協定を締結 ・ 2025 年 3 月 10 日 空港を含む地域複数施設で育てたホップで地ビール醸造
受入環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域交通ネットワークの拡充および利便性向上 ➢ FAM トリップや観光案内・地域コンシェルジュ業務を通じて取得したターゲット顧客ニーズを地域観光事業者（宿泊・交通・飲食・体験など）に対してフィードバック（部屋の仕様、食事内容、通訳方法など） ➢ 多言語化対応のサービス拡充（多言語翻訳アプリの展開） ➢ 地域の観光経営人材の育成

	<p>➤ コロナ渦における地域全体の安全・安心ブランドの確立および地域事業者のおもてなしと事業継続を支援するプロジェクト推進</p> <p>＜実績例＞</p> <p>① <u>二次交通ネットワーク整備</u></p> <p>■候補 DMO 登録前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018年12月27日 サイクリストに優しい空港認定 ・ 2019年1月30日 空港手荷物配送サービス開始 ・ 2019年2月27日 空港のバスター・ミナル化 ・ 2019年4月1日 明光バスと地域交通利便性向上 ・ 2019年5月20日 明光バス・JR西日本と包括連携協定 ・ 2019年7月1日 花火大会の交通渋滞対策の実証 ・ 2019年7月30日 空港レンタカーステーション開設 ・ 2019年8月2日 小型電動EV車レンタル事業開始 ・ 2019年8月21日 JAL羽田-南紀白浜路線が機材大型化 ・ 2020年3月18日 大阪方面への高速バス拡充 <p>■第1期：2020年10月～2021年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年11月26日 空港オンデマンドタクシー開始 <p>■第2期：2021年4月～2022年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年2月10日 電動シェアサイクル開始（空港・白浜駅・白浜バスセンター・アドベンチャーワールド） <p>■第3期：2022年4月～2023年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年11月30日 SKYTREKと富裕層向けプライベートジェットの受入プラン造成 <p>■第4期：2022年4月～2023年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年12月21日 オンデマンドバスの実証運行を白浜町で開始 <p>■第5期：2024年10月～2025年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024年9月19日 白浜町でオンデマンドバスの実証運行を10月から開始 <p>② <u>地域の受入体制の強化</u></p> <p>■候補 DMO 登録前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年6月13～16日 WFDF2019 アジア・オセアニアビーチアルティメット選手権大会ビーチアルティメットにおいて大会事務局と連携して来訪した外国人および地域施設における多言語翻訳サービスを展開 ・ 2019年9月12日 ワークーションの受入体制強化としてホテルと連携した年間宿泊プランを造成・販売 ・ 2019年11月28～29日 南紀熊野観光塾で観光経営人材育成のプログラム開催 ・ 2019年12月11日 ホテル向け遠隔コンシェルジュサービスの実証実験を開始 ・ 2020年3月16日 地域の新型コロナ感染症対策として笑顔で除菌ができる自動消毒器を設置。空港・紀陽銀行・白浜町役場・明光バスなど地域事業者と連携して設置。笑顔で消毒した回数に応じて消毒液を学校に寄付。 ・ 2020年5月11日 ワークーション受入体制の拡充のために空港に個室型スマートワークブースを設置
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年6月3日 和歌山まるごと抗ウイルス大作戦を立ち上げ、地域の安全・安心ブランドの確立および地域事業者の事業継続を目的に、ガイドライン策定や手指消毒液の設置、抗ウイルス・抗菌コーティング施工などを50施設以上（バス会社・ホテル・銀行・テーマパーク・飲食店・遊覧船・オフィス・海水浴場・学校・福祉施設など）に展開 <p>■第1期：2020年10月～2021年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年10月21日 白浜町第三ITビジネスオフィス（ANCHOR）オープニングセレモニー 参加 ・ 2020年3月1日 串本民間ロケット発射場に関してスポーツポート紀伊周辺地域協議会 参加 ・ 2020年11月21日 田辺市主催の地域課題をビジネスで解決する経営人材育成プログラム「たなべ未来創造塾」の講師 ・ 2020年11月25～27日 和歌山大学主催の地域事業者の経営塾である「南紀熊野観光塾」の講師 ・ 2020年12月3日 和歌山大学「観光・地域づくり講座」で観光学部生を中心に地元大学生向け講師 <p>■第2期：2021年4月～2022年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年7月13日 ありだ広域交流協議会の事業アドバイザーとして広域で5事業者が連携した新たな広域ご当地体験コンテンツを造成 ・ 2021年11月20日 田辺市主催の地域課題をビジネスで解決する経営人材育成プログラム「たなべ未来創造塾」の講師 ・ 2021年12月18日 和歌山大学「熊野郷土学」で観光学部生を中心に地元大学生向け講師 ・ 2022年1月26日 秋津野ガルテンとワーケーション受入に関してのプラン造成や体制構築の意見交換 <p>■第3期：2022年4月～2023年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年9月29日 田辺市主催の地域課題をビジネスで解決する経営人材育成プログラム「たなべ未来創造塾」の講師 ・ 2022年11月23日 ワーケーションコレクティブインパクト和歌山のイベントで地域事業者向けワークショップの講師 ・ 2023年3月23日 和歌山イノベーションベースで地元スタートアップ経営者の講師 ・ 2023年3月28日 田辺市の異業種が交流する勉強会の講師 <p>■第4期：2022年4月～2023年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年7月～12月 JR西日本とJMAMと連携した地域交通課題解決の人材育成プログラムである「きのくに線こどこらぼ」の企画・運営・講師 ・ 2023年8月～1月 JMAMと連携した地域課題課題解決の人材育成プログラムである「田辺こどこらぼ」の企画・運営・講師
--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023 年 10 月 21 日 田辺市主催の地域課題をビジネスで解決する経営人材育成プログラム「たなべ未来創造塾」の講師 ・ 2023 年 8 月 30 日 和歌山大学の観光地フィールド実習プログラムの企画・運営・講師 ・ 2023 年 12 月～2024 年 2 月 和歌山大学専門職大学院の観光ファイナンスの講師（計 8 回講義） <p>■第 5 期：2024 年 4 月～2025 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年 7 月～12 月 JR 西日本と JMAM と連携した地域交通課題解決の人材育成プログラムである「きのくに線こところらぼ」の企画・運営・講師 ・ 2024 年 7 月～1 月 JMAM と連携した地域課題課題解決の人材育成プログラムである「田辺こところらぼ」の企画・運営・講師 ・ 2024 年 8 月 20 日 和歌山大学の観光地フィールド実習プログラムの企画・運営・講師 ・ 2024 年 11 月 2 日 田辺市主催の地域課題をビジネスで解決する経営人材育成プログラム「たなべ未来創造塾」の講師 ・ 2024 年 12 月～2024 年 2 月 和歌山大学専門職大学院の観光ファイナンスの講師（計 8 回講義）
		<p>観光資源の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域まるごと DX として、NEC と連携した地域まるごと顔認証 IoT おもてなしサービス：地域 13 施設（空港、ホテル、テーマパーク、飲食、ショッピング、観光施設、海鮮市場、ゴルフ場など）で顔認証を活用した特別なおもてなしサービスの展開（キャッシュレス決済、キーレス入室、歓迎メッセージ表示など） ➢ ワークーション総合コンシェルジュとして、地域の観光資源や地域課題をビジネス資源として磨き上げを行い、新しいご当地体験プログラムとして首都圏企業を中心に 200 社 3000 件以上の販売・手配（地域事業者と連携して地域資源を活用した企業研修、健康経営、プロジェクト合宿、CSR・SDGs プログラム、地域課題解決、副業マッチングなど） ➢ 地域まるごと職業体験プログラム構想で、空港・ホテル・農家・漁師・テーマパークなどのお仕事を体験プログラムとして提供 ➢ 空港バックヤードツアーや 1 日空港長体験プログラムを造成・販売 <p>＜実績例＞</p> <p>①地域まるごと DX</p> <p>■候補 DMO 登録前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018 年 12 月 13 日 NEC と顔認証おもてなしサービスを開始。地域 4 施設でウェルカムサイネージやキャッシュレス決済などのおもてなしサービスを展開 ・ 2019 年 4 月 8 日 顔認証おもてなしサービスにアドベンチャーワールドが参画して、VIP 動線入場サービス開始

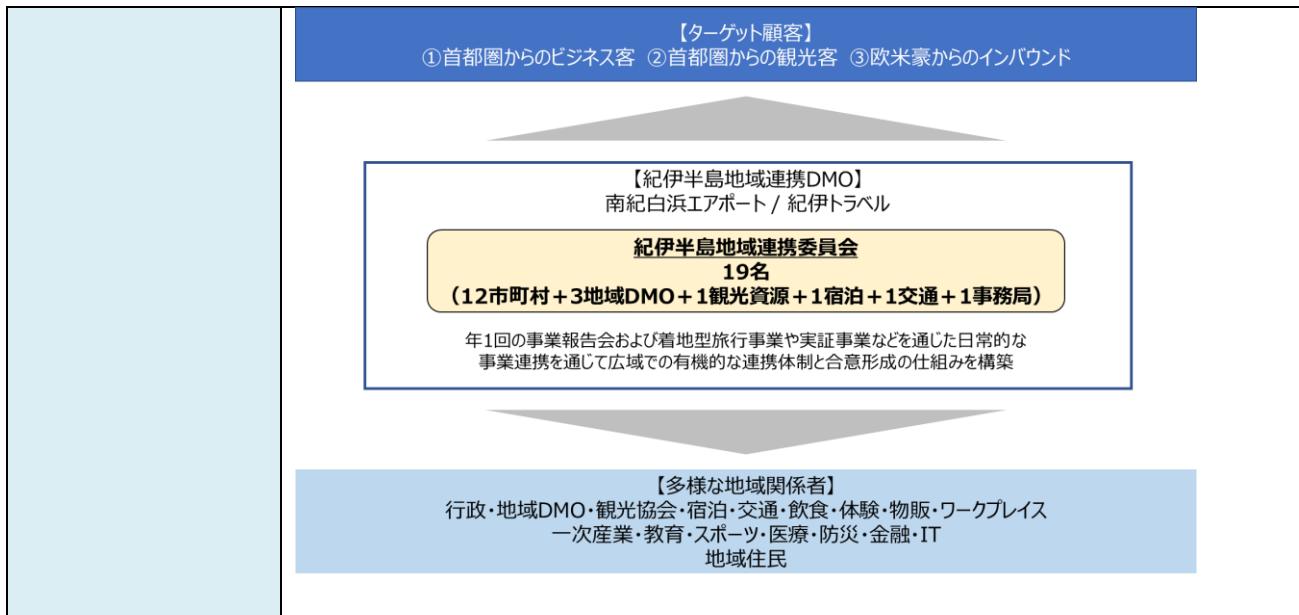
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年8月5日 顔認証おもてなしサービスに白浜観光協会が参画して、白良浜ビーチにおける売店での顔認証キャッシュレス決済サービス導入 ・ 2019年10月25日 顔認証おもてなしサービスの顔認証キャッシュレス決済サービスに飲食店（スカイアドベンチャー）・土産店（福亀堂）・バス会社（明光バス）・観光地（三段壁洞窟）・ゴルフ場（南紀白浜ゴルフ俱楽部）が新たに参画 ・ 2020年2月6日 顔認証おもてなしサービスにスマートフォン向け「南紀白浜 IoT おもてなし MAP」を追加。また、地ビール工場（なぎさビール）や飲食店も追加。 ・ 2020年5月26日 株式会社ウフルと IoT 活用した新型コロナ対策ソリューションの三密可視化システムの実証実験を開始。地域のホテル・観光地・飲食店にも展開。 ・ 2020年9月4日 顔認証おもてなしサービスにJALが参画して、羽田空港および南紀白浜空港内での手荷物待ち時間表示やお見送り笑顔サイネージ、顔認証キャッシュレス決済を導入 <p>■第1期：2020年10月～2021年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年11月30日 オール白浜で挑む南紀白浜デジタル化プロジェクトでクラウドファンディングを実施。自治体・観光協会・民間団体・漁港・ホテル・バス会社・旅行代理店・土産店・テーマパーク・地元企業・銀行・鉄道会社など 25 事業者と連携して約 300 万円の支援金を獲得。各施設 EC サイトやオンラインツアーなどの機能を有するオンラインマップを制作。 ・ 2020年12月19日～1月17日 南紀白浜パンダバンブーEXPO. を開催（白浜町・白浜観光協会・白浜町商工会・白浜温泉旅館協同組合・JR 西日本・アワーズ・TSP 太陽と連携） ・ 2021年3月26日 顔認証おもてなしサービスにコロナ渦に対応するための空港・ホテル・テーマパークなどの混雑度 Web 表示機能を追加。合わせて南紀白浜観光協会と連携して地域 25 施設で利用可能な地域周遊クーポン連携も導入。 <p>■第2期：2021年4月～2022年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年11月12日～23日 地域アプリを活用した南紀白浜観光促進キャンペーンの実証実験を共催（TIS、白浜町、三段壁、白浜観光協会、南紀白浜観光局、アドベンチャーワールド、エネルギーランド、とれとれ市場などと連携） <p>■第3期：2022年4月～2023年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 顔認証おもてなしサービスの顔パスキャッシュレス機能がマスク着用のままでも対応できるように機能アップデート。 <p>■第4期：2023年4月～2024年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各施設が導入している顔認証おもてなしサービスのハードおよびソフトについて機器更新などのアップデート。合わせて 2024 年 4 月からワーケーション施設への新規導入に向けた地域調整および導入準備を実施。
--	---

	<p>■第5期：2024年4月～2025年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 各施設が導入している顔認証おもてなしサービスのハードおよびソフトについて機器更新などのアップデート。合わせて2024年4月からワーケーション施設への新規導入を実施。 <p>②ワーケーション向け専用コンテンツの開発</p> <p>■候補DMO登録前</p> <ul style="list-style-type: none"> 2019年8月22～24日 国内で初となる親子ワーケーションのモニタツアを開催。和歌山県と連携して白浜町・串本町で実施、首都圏を中心に8組23名の親子が参加。子ども向けの地域体験プログラムを造成。 <p>■第1期：2020年10月～2021年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年10月7日～2021年2月3日 日本能率協会マネジメントセンターおよび和歌山県・田辺市・地域事業者と連携した地域課題解決型ラーニングワーケーションプログラムを開催。 2020年10月16～17日 首都圏企業のCIO（24名）が参加するワーケーション体験ツアーを造成・開催。企業VIP向けの地域体験コンテンツを造成。 2020年10月28～29日 大阪府経営合理化協会向けワーケーション体験を開催。経営者向けのご当地コンテンツや特製ご当地グルメを造成。 2020年11月12～13日 和歌山県と連携してオンラインワーケーションツアーを開催。 2020年11月18～21日 日本能率協会マネジメントセンターと連携して太地町でくじらをテーマにしたダイバーシティ研修プログラムを造成・開催。 2020年12月16～18日 和歌山県と連携して経団連/日観振向けのワーケーション体験を受入。地域関係者との意見交換会などのワークショップを開催。 2021年1月7～8日 じゃらんリサーチセンターのワーケーション視察受入で地域キーパーソンからの講演などのプログラムを造成。 2021年3月12～15日 林野庁の森林サービス産業の事業を活用して、田辺市・白浜町を中心にTISと連携して健康経営型ワーケーションを開催。食育・湯治・森林ヨガなどのご当地プログラムを造成。第三者専門機関によるワーケーション効果のエビデンス取得も実施。 2020年10月～2021年3月 三菱地所・JTBと連携して大手銀行やIT企業など複数の合宿型ワーケーションや研修型ワーケーションを受入。農業体験や世界遺産の保全活動などのコンテンツを造成・提供。 <p>■第2期：2021年4月～2022年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年5月27日～10月14日 日本能率協会マネジメントセンターおよび田辺市・地域事業者と連携したオンラインでの地域課題解決型ラーニングワーケーションプログラムを開催。 2021年7月28～29日 企業向けの地域DX視察ツアーをワーケーションプログラムとして造成。企業・自治体・
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年12月2~5日、2022年1月13~16日 観光庁 「新たな旅のスタイル促進事業」でTISおよび地域事業者と連携して、人的資本経営の強化を目指した人材育成×健康経営のワーケーションプログラムを造成。産業医や理学療法士ら専門家と連携して白浜町・田辺市・那智勝浦町・新宮市などを広域でのご当地ウェルビーイングコンテンツを造成。 ・ 2021年4月~2022年3月 三菱地所・JTBと連携して大手銀行やIT企業など複数の合宿型ワーケーションや研修型ワーケーションを受入。農業体験や世界遺産の保全活動などのコンテンツを造成・提供。 <p>■第3期：2022年4月~2023年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年6月2~5日 情報サービス産業協会向けに地域課題解決型の研修プログラムを造成 ・ 2022年8月16~20日 佼成学園高校向けプログラムとして那智勝浦町など紀南エリア広域での地域課題解決型プログラムを造成 ・ 2022年6月15日~17日、11月16日~18日 日本能率協会マネジメントセンターおよび田辺市・地域事業者と連携した地域課題解決型ラーニングワーケーションプログラムを造成。 <p>■第4期：2023年4月~2024年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年5月25日 スプラッシュトップと連携した地元農家の事業課題解決型ワーケーションプログラム「わかやま農業DXワーケーション」の企画・運営・講師 ・ 2023年6月27日 観光庁の「経営層向けワーケーションツアー」の企画・運営・講師 ・ 2023年8月28日 常翔学園の教職員向けの働き方・キャリア研修を兼ねたワーケーション体験の企画・運営・講師 ・ 2023年9月11日 パソナJOBHUBと連携したUSEN-NEXTホールディングスの就職活動大学生向け越境型インターンシップの企画・運営・講師 ・ 2023年10月27日 TISのヘルスケア事業部門向けの地域ヘルスケア課題×DXをテーマにした南紀白浜ワーケーションの企画・運営・講師 ・ 2023年11月17日 IT人材活性化研究会のDX人材育成研修の企画・運営・講師 ・ 2023年12月13日 サントリーの新規事業開発合宿プログラムの企画・運営・講師 ・ 2024年1月23日 NMPの経営幹部育成プログラムの企画・運営・講師 ・ 2024年1月16日 リコーの管理職向けのワーケーションプログラムの企画・運営・講師 ・ 2024年1月31日 オウライと連携した中小企業庁ローカル事業者ビジネスマッチング事業の地域4市町ビジネスマッチングの企画・運営・コーディネート ・ 2024年2月~3月 スプラッシュトップと連携した南紀白浜ジオパークの活性化をテーマにした環境DXデコ活ワーケーションの企画・運営・講師
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年 3 月 12 日 NES の事業デザイナーの越境型 DX 人材育成研修の企画・運営・講師 <p>■第 5 期 : 2024 年 4 月～2023 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年 6 月 3 日 NES 労働組合に対して地域の観光活性化プログラムの企画・開発・運営・講師 ・ 2024 年 6 月 12 日 アイシン向けの地域課題解決プログラムの企画・開発・運営・講師 ・ 2024 年 7 月 1 日 紀陽銀行若手研修で地域課題解決プログラムの企画・開発・運営・講師 ・ 2024 年 7 月 10 日 JR 西日本のローカル路線活性化に向けた地域課題解決プログラムの企画・開発・運営・講師 ・ 2024 年 9 月 3 日 ライフシフト大学と連携した地域課題解決型セカンドキャリア向けプログラムの企画・開発・運営・講師 ・ 2024 年 12 月 10 日 リコーとアドベンチャーワールドの共創型サステナブル体験コンテンツの造成プログラムの企画・開発・運営・講師 ・ 2025 年 2 月 19 日 一橋大学 MBA 向けの林業課題解決型プログラムの企画・開発・運営・講師 <p><u>③空港の体験プログラム造成</u></p> <p>■候補 DMO 登録前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018 年 10 月 7 日 南紀白浜空港内の格納庫内で東京フィルハーモニーと連携して世界的人気の高いピアニストとバリトン歌手を招聘して空港音楽イベントを開催。 ・ 2019 年 10 月 19 日 南紀白浜空港内で世界遺産である熊野古道をモチーフにしたカルテットバンドによる音楽イベントを開催 ・ 2020 年 5 月 5 日 空港の保安エリアを解放して空港音楽室として非日常空間の利用をコンテンツ化 <p>■第 1 期 : 2020 年 10 月～2021 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020 年 10 月 25 日 南紀白浜空港内でバイオリリストを招へいして、地元飲食店と連携しての一夜限りのナイト JAZZ ライブ飲食イベントを開催。 ・ 2020 年 10 月 19 日 空港バックヤード体験ツアーを造成 <p>■第 2 期 : 2021 年 4 月～2022 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021 年 7 月 5 日 空港バックヤード体験ツアーをコンテンツ化。2021 年 7 月～2022 年 3 月の期間で県内外から 12 団体 338 名以上が体験。 ・ 2021 年 11 月 19 日 空港での業務体験をプログラム化した 1 日空港所長体験コンテンツを造成。自治体や地域事業者と連携してクラウドファンディングやふるさと納税の返礼品としても提供。 <p>■第 3 期 : 2022 年 4 月～2023 年 3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空港バックヤード体験ツアーを年間 34 回開催。県内外から合計 1105 名が参加。 ・ 2022 年 6 月 6～10 日 ドラマ東京 MER の映画撮影を誘致 ・ 2022 年 7 月 3 日 空港で地元チア団体がダンスイベント ・ 2023 年 2 月 12 日 東京ガールズコレクション和歌山のトークイベントを空港で開催して 300 名超が参加。
--	---

	<p>■第4期：2023年4月～2024年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港バックヤード体験ツアーを年間26回開催。県内外から合計390名が参加。 ・2024年2月4日 東京ガールズコレクション和歌山のトークイベントを空港で開催して約200名が参加。 <p>■第5期：2024年4月～2025年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港バックヤード体験ツアーを年間26回開催。県内外から合計725名が参加。
	<p>【定量的な評価】</p> <p>①南紀白浜空港の旅客数</p> <p>ターゲットである首都圏からの入込客数)が増加。コロナ渦でも落ち込みが限定的で、早期に需要が回復。</p> <p>2017年度：13.2万人 2018年度：16.1万人 2019年度：17.7万人 2020年度：8.5万人 2021年度：14.0万人 2022年度：23.1万人 2023年度：23.0万人 2024年度：23.6万人</p> <p>②着地型旅行手配の件数</p> <p>2019年度：542件（6月18日より第2種旅行業を開始） 2020年度：379件 2021年度：528件 2022年度：823件 2023年度：748件 2024年度：622件</p>
<p>実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。</p>	<p>【実施体制の概要】</p> <p>紀伊半島地域連携DMOが事務局を運営する紀伊半島地域連携委員会を設置。DMO活動の内容・成果・KPI達成状況などについて年1回（決算後の7月）の報告会を開催して、広域連携する12市町村の行政をはじめ、連携する3つの地域DMO、地域が「売り」とする観光資源の関係者、宿泊・交通事業者の幅広い分野の関係団体の代表者とともに、持続可能で稼げる観光地域づくりに向けた多様な地域関係者の合意形成の仕組みを構築。</p> <p>また、各メンバーや多様な地域事業者とは着地型旅行事業や地域磨き上げの実証実験などを通じて、宿泊・交・飲食・体験・購買および農林水産・文化・歴史・スポーツ施設などへの日常的な送客（年間500～800件）や受入体制の磨き上げについて意見交換や事業連携について協議を行っており、ターゲット顧客目線での有機的な地域連携体制づくりと合意形成に基づくPDCAサイクル構築および地域連携DMO運営を実施。</p> <p>【実施体制図】</p>



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

和歌山県紀南エリア（印南町、みなべ町、田辺市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町、新宮市）



【区域設定の考え方】

和歌山県紀南エリアは、世界的に評価の高い世界遺産である熊野古道をはじめ、自然・歴史・文化が豊かな地域であり、地域資源の歴史・文化的な面からも誘客コンセプトとして共通する点が多く、行

政の区分をまたいだ複数地域一体とした広域観光に適した地域である。対象地域は空の玄関口である南紀白浜空港の後背圏であり、ターゲットである首都圏・欧米豪からのアクセスの点においても、空港を起点としたアクセスが描きやすいことから、安定的かつ継続的に地域が一体となって連携して魅力を発信することで、さらなる誘客・地域活性化の相乗効果が発揮できる区域設定となっている。

【観光客の実態等】

和歌山県紀南地域への2018年の観光客数は1,528万人（和歌山県全体への観光客数の約44%）で、前年と比較して2.7%増加、うち宿泊客数は379万人（観光客数のうち24.8%）となっている。ロンリープラネット「Best in Travel 2018」において訪れるべき世界の10地域のベスト5に紀伊半島が選ばれるなど、当地域への注目度は世界的にも高まっており、今後の広域連携による地域マーケティング・マネジメント次第で更なる観光客数の増加を見込むことができるポテンシャルの大きな地域である。また、近年は働き方改革や事業継続を企図した事業拠点の首都圏一極集中回避の傾向がある中で、和歌山県は県知事がワーケーション自治体協議会の初代会長を務めるなど、ワーケーションの全国トップランナーとして、ワーケーションを目的としたビジネス客の誘致に成功している。さらに、先端技術を持つIoT関連企業の実証実験地、民間ロケット発射場の建設地など観光とも親和性の高い先端ビジネス地としても脚光を浴びている。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

世界遺産・ミシュラン3つ星でパワースポットの熊野古道をはじめ、歴史・文化・自然・食・体験を楽しめる地域である。対象地域に広域に分布するこれらの観光資源を活かし、ターゲット顧客目線で地域事業者と連携して広域周遊を仕掛けることで、宿泊客の増加を目指していく。



これらの観光資源のほかに、田辺市・上富田町ではスポーツによる誘致活動も盛んに行っており、近年ではラグビー日本代表チーム、プロサッカーチームなどの合宿が行われている。また、豊かな自然環境や風景を活かした各種スポーツイベント（例：南紀白浜トライアスロン大会、アジア・オセアニア・アーチアルティメット選手権大会、ライドオンすさみ、紀州口熊野マラソン）も多く行われており、地域の大きな魅力にもなっている。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

和歌山県紀南エリアには、宿泊施設が532軒（定員36,444人）あり、そのうちの約半数の318軒（定員22,767人）が田辺・白浜地区に分布している。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

地域の中心部に南紀白浜空港があり、東京（羽田）との間を約1時間のフライトで結んでいる。

空港から南北へは、JR のほかに、高速道路が延伸中であり、高速バス、レンタカーでの移動の利便性も向上している。

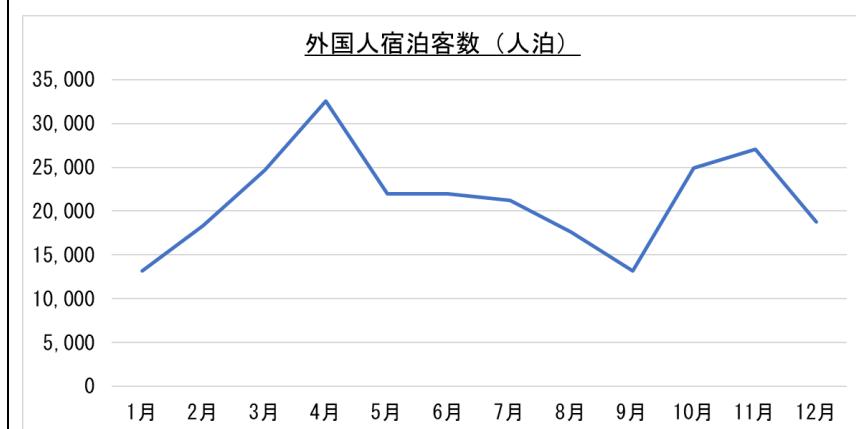
 和歌山県へのアクセス
>> Access to Wakayama



【外国人観光客への対応】

和歌山県全体への外国人観光客（2018年）は約47万9千人で、そのうち対象地域への来訪は約51%の約24万5千人を占める。

月別の外国人宿泊客数をみると、国内からの旅行シーズンのピーク（7月・8月）から外れた傾向にあることから、オフピークの需要の底上げ及び年間需要の平準化に寄与することが期待される。



外国地域別にみると、アジアは 66%、欧米豪ほかが 34% を占めている。熊野古道など地域の観光資源との親和性や訪日観光客数の伸び率などから、欧米豪インバウンドの今後の伸長が期待される。なお、外国人観光客の受入強化にあたっては、カード決済を含むキャッシュレスの普及や単なる日本語ガイドの翻訳にとどまらない各国の文化的相違背景も踏まえた言語おもてなし対応、ビーガン・グルテンフリーや日本食の文化・作法まで踏まえた飲食対応などの受入体制の拡充が必要。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、地域への経済波及効果を把握するとともに、消費単価向上の戦略・施策立案を行うため。	和歌山県観光客動態調査および各市町村・地域 DMO が発表する統計データを分析
延べ宿泊者数	地域全体の宿泊者数の推移を把握して、ターゲット顧客誘致のための月別や目的別の戦略・施策立案を行うため。	和歌山県観光客動態調査および各市町村・地域 DMO が発表する統計データを分析
来訪者満足度	来訪者の満足度の高い項目、満足度の低い項目およびその要因を把握・分析することで、地域の魅力向上に向けた戦略・施策立案を行うため。	広域周遊の拠点となる白浜町の南紀白浜観光協会と連携して取得する対面・Web アンケートの統計データを分析
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、観光客・ビジネス客に対するサービス品質の維持向上を図り、リピーター顧客を増やすための戦略・施策立案を行うため。	広域周遊の拠点となる白浜町の南紀白浜観光協会と連携して取得する対面・Web アンケートの統計データを分析
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等および観光情報発信による利用者の反応状況を把握して、広報戦略・施策立案を行うため。	Google アナリティクスを活用してデータ収集。ウェブサイトの訪問者数や検索キーワードのデータを収集・分析
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測り、地域にとっての受け止め方を把握し、地域住民とも合意形成を図りながら発展の方向性を検討するため。	地域住民・関係者が参加する地域ビジョン共有ワークショップ（南紀白浜/和歌山ビジョンミーティング）の月次アンケート結果を分析
南紀白浜空港旅客数	ターゲット顧客である首都圏・欧米豪の広域周遊の玄関口となる空港旅客数を分析することで、各戦略・施策の効果測定を行うため。	日本航空と連携して取得する便別の空港旅客数データを分析

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

南紀白浜空港が位置する白浜町および紀南エリア広域で共有するの課題として、①人口の急速な減少と少子高齢化、②観光需要が季節や曜日で偏りが大きい、③全国の自治体と比較して所得水準が低い、といった特徴が挙げられる。具体的には、①人口減少：和歌山県の人口減少率（▲1.05%）は全国8位の高さ、②偏りが大きい観光特性として7割以上の来訪が関西から（東京5%、海外5%）で夏季や週末に集中、③4割の来訪者が日帰りで消費金額が低く所得水準は247万円、となっている。こうした地域の現状に対して、各市町村単位だけではなく広域で地域連携することで、①観光目的の交流人口に加えて移住・定住に繋がるような関係人口の創出、②平日需要の底上げと年間通じての需要の底上げ・平準化による稼ぐ力の向上、③広域周遊・長期滞在による消費金額の拡大を通じた所得の底上げ、といった方向性および戦略・施策を共有しながら、持続可能で稼げる地域づくりを目指していく必要がある。

（2）地域の強みと弱み

		好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界文化遺産に登録された「熊野古道」といったワールドクラスの資源があること 東京（羽田）から南紀白浜空港までフライト1時間と圧倒的に近いこと 海山川という自然、文化、食などの観光資源が揃っていること 観光客だけでなく、ワーケーションの高まりやロケット発射場の建設等によるビジネス客も増えていること これまで少なかった首都圏からの観光客や欧米豪からの外国人観光客が年々増加していること 宿泊施設のリニューアルが行われていること（白浜地域、那智勝浦地域） 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界的に高い評価に比して、和歌山の魅力の認知度が圧倒的に低いこと 関西からの観光客の夏期の目的地になっており、関西以外、また、夏以外、平日の需要が弱いこと 公共交通網が未発達のため、公共交通による移動が困難であること 観光情報の発信が行政区画単位で行われていることが多く、広域周遊をするための情報を入手しづらいこと キャッシュレス普及率が低いこと 多言語対応や食事（例：ベジタリアン対応）などインバウンド対応が不十分であること 	
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、リモートワークが浸透し和歌山県が進めるワーケーションオフィス需要が高まる傾向にあること、 高速道路の延伸により広域周遊の利便性が向上すること 日本航空の羽田－南紀白浜線の機材大型化・運賃低減により、入込客数の増加が見込まれること ロケットの発射による新たな観光需要の創出が期待されること 各種イベント（東京オリンピック、紀の国わかやま文化祭 2021、2025年大阪万博）の開催により観光需要が高まること 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高速道路の延伸により、関西からの観光客の日帰り傾向が高まり、地域での消費が落ち込む可能性があること 他の観光地域との競争の激化が予想されること 人口減少、少子高齢化の進行により、中長期的に地域の受入体制の維持が困難になることが予想されること 	

※上記に加え、P E S T分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（3）ターゲット

<p>①第1ターゲット層</p> <p>首都圏からのビジネス客</p> <p>（ワーケーションで訪問する企業社員、地域に進出しているIT企業等の社員など）</p>

○選定の理由

繁忙期である夏期に限らず年間を通じた訪問（特に平日需要の底上げ）が期待できること、また、継続的な訪問が期待できること。ビジネスでの訪問をきっかけに、インフルエンサーとして家族・友人・同僚への波及効果も期待されること。

○取組方針

自然環境の豊かな地での生産性の高いワーケーションのPRや企業向けの研修プログラムの造成による誘致活動の実施。さらには、対象地域への投資の呼び込み（実証実験等も含む）や企業誘致により、継続的に訪問する層の呼び込みを行う。

②第2ターゲット層

首都圏からの観光客

（時間価値を重視して近郊リゾート等で余暇を過ごす富裕層、或いは、温泉地や多彩なアクティビティに关心があるファミリー層）

○選定の理由

国内最大の顧客マーケット層であり、また和歌山の自然豊かな環境が都市部との非対称性が大きく魅力的に感じると考えられること。

○取組方針

羽田ー南紀白浜線のフライトにより、海山川の大自然や温泉、パンダが複数いるテーマパークへ、関東周辺の観光地より時間的に早くアクセスできることを訴求することで誘致活動を行う。

③第3ターゲット層

欧米豪からの観光客

（リゾートライフと日本の歴史文化に興味を持つ知的富裕層）

○選定の理由

熊野古道等の地域の観光資源との親和性が高く、インバウンドの中でも消費単価が高いこと。

訪日旅客数の伸び率が高く、今後の需要拡大が期待できること。

訪日滞在期間が長く大都市のほかに地方訪問する傾向があること、また、首都圏から入国する割合が高いいため、羽田ー南紀白浜線のフライトにより対象地域へ誘致しやすいうこと。

日本人とは旅行シーズンがずれており、オフピーク需要を底上げできること。

○取組方針

自治体や観光団体と一体となった観光資源のPRによる認知度向上とともに、海外旅行代理店のFAMトリップの実施、海外旅行代理店と連携した旅行商品の造成などにより、誘致活動を推進する。

（4）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	「関西の奥座敷から世界のKii（紀伊）へ」
②コンセプトの考え方	日本におけるワーケーションの聖地・自然崇拜の聖地として、日本のハワイと呼ばれる南紀白浜エリアのリゾート資源と、SDGs・多様性の原点と呼ばれる南紀熊野エリアの自然・文化資源の相乗効果により、世界からの選ばれる観光地となる。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	紀伊半島地域連携 DMO が事務局を運営する紀伊半島地域連携委員会を設置。DMO 活動の内容・成果・KPI 達成状況などについて年 1 回（決算後の 7 月）の報告会を開催して、広域連携する 12 市町村をはじめ、連携する 3 つの地域 DMO、地域が「売り」とする観光資源の関係者、宿泊・交通事業者の幅広い分野の関係団体の代表者とともに、持続可能で稼げる観光地域づくりに向けた戦略の多様な地域関係者との共有を行う。
	着地型旅行事業（紀伊トラベル）を通じて、各自治体・各地域 DMO および観光関連事業者（宿泊・交通・飲食・体験・購買など）・地域事業者（農林水産・文化・歴史・スポーツ施設など）とは日常的に（年間 350 日以上）送客や受入体制の構築などについて、メール・電話・会議などで合意形成を行っている。また年 1 回（決算後の 7 月）は活動の意義・内容・成果、KPI の達成状況や取組による地域経済・社会の変化の分析結果等を記載した報告書を作成し、地域の関係者に共有している。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	着地型旅行事業や地域磨き上げの実証実験などを通じて、宿泊・交通・飲食・体験・購買および農林水産・文化・歴史・スポーツ施設などへの送客や受入体制の磨き上げについて、顧客の要望やフィードバックを定期的に行うことでサービスの維持・向上・評価を行う。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	和歌山県および広域連携する 12 市町村をはじめ、連携する 3 つの地域 DMO、地域が「売り」とする観光資源の関係者、宿泊・交通事業者等の幅広い分野の関係団体とともに共同プロモーションを実施するとともに、プレスリリースや SNS（空港 Instagram）、メディア（テレビ・新聞・ラジオ等）を活用して、効果的かつ多重的なプロモーションを実施している。また空港における観光案内所でのコンシェルジュ機能や着地型旅行事業を通じた地域案内・商品販売のワンストップ窓口の機能を通じて地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーションを展開している。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. KPI（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

（1）必須KPI

指標項目		2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度	2026 (R 8) 年度	2027 (R 9) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	270,000 (9,000)	270,000 (9,000)	241,060 (7,800)	248,290 (8,030)	255,740 (8,270)	263,410 (8,520)
	実績	212,047 (877)	234,042 (7,568)	243,632 (10,881)			
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	4,000 (250)	4,000 (250)	3,530 (265)	3,740 (280)	3,960 (300)	4,200 (320)
	実績	3,077 (24)	3,335 (206)	3,457 (297)			
●来訪者満足度 (%)	目標	87.0 (87.0)	90.0 (90.0)	90.0 (90.0)	90.0 (90.0)	90.0 (90.0)	90.0 (90.0)
	実績	90.1 (-)	98.1 (-)	97.2 (-)			
●リピーター率 (%)	目標	59.0 (59.0)	60.0 (60.0)	60.0 (60.0)	60.0 (60.0)	60.0 (60.0)	60.0 (60.0)
	実績	56.5 (-)	59.4 (-)	56.8 (-)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

2020年10月（第1期 事業開始当初）

和歌山県や白浜町ほか各自治体や地域DMO・観光団体等で実施している統計調査・アンケート調査を基に、2020年度に対象地域（和歌山紀南地域12市町村）に関する目標数値の種類および集計方法等について各種データを収集・分析を行い、その結果をもとに事務局で目標値の素案を作成、地域関係者と検討および調整を行い、目標数値を設定した。

2022年8月（第2期 事業報告時）目標再設定PDCA

2022年度以降の目標値については、2021年度の実績データを踏まえて、新型コロナ感染症の収束状況やインバウンドの回復見通しなどを関係者と協議の上で見直しを行い、事務局で目標値の素案を作成、地域関係者と検討および調整を行い、2022年度以降の目標数値を再設定した。

2023年7月（第3期 事業報告時）目標再設定PDCA

2022年度は新型コロナ感染症の影響を受けながらも旅行に関する意識変化に伴う機運の高まりや全国旅行支援などの需要喚起策もあり一定の需要回復が見られた。2023年度以降の目標値については、2022年度の実績データを踏まえて、新型コロナ感染症の収束状況（第5類への移行）やインバウンドの回復見通しなどを関係者と協議の上で見直しを行い、事務局で目標値の素案を作成、地域関係者と検討および調整を行い、2023年度以降の目標数値を再設定した。

2024年7月（第4期 事業報告時）目標再設定PDCA

2023年度は新型コロナ感染症の影響が収束し、国内観光およびインバウンドともに観光需要が大きく回復した。2024年度以降の目標値については、2023年度の直近の実績データを踏まえて、国内観光需要の維持およびインバウンド需要の拡大や大阪万博のイベント需要などを関係者と協議の上で見直しを行い、事務局で目標値の素案を作成、地域関係者と検討および調整を行い、2026年度までの目標数値を再設定した。

2025年7月（第5期 事業報告時）目標再設定PDCA

2024年度は、国内観光は横ばいながらインバウンドが伸長、全体として観光需要が増加傾向になっている。2025年度以降の目標値については、2024年度の直近の実績データを踏まえて、国内観光需要の維持およびインバウンド需要の拡大や大阪万博のイベント需要および白浜のパンダ返還などを関係者と協議の上で見直しを行い、事務局で目標値の素案を作成、地域関係者と検討および調整を行い、2027年度までの目標数値を再設定した。

【設定にあたっての考え方】**●旅行消費額****2020年10月（第1期 事業開始当初）**

首都圏・欧米豪の旅行消費額の高い顧客層をターゲットとしており、地域経済への波及効果に最も直結するKPIと位置付けている。直近で公表されている和歌山県観光統計調査に基づくと、日帰り客1人あたりの消費額は2008年度7,646円に対して2014年度10,819円、宿泊客1人あたり消費額は2008年度30,807円（1泊あたり21,246円）に対して2014年度36,664円（1泊あたり29,808円）であり、宿泊客1人あたりの年平均成長率で2.94%となっている。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、過去の傾向を基にした目標値設定が困難であるが、関係者と協議を行い2020年度は1～5月の各種統計より9割減の見込みとしたうえで、2022年度に2018年度の水準を超えることを目標として設定する。

2022年8月（第2期 事業報告時）目標再設定PDCA

2021年度の実績を踏まえて関係者と協議を行い、2022年度に2018年度の水準を超えることを目標として引き続き設定した上で、2023年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2008年度→2014年度の年平均成長率2.94%を超える前年対比3.0%の成長を見込んだ数値を新たに目標値として設定した。

2023年7月（第3期 事業報告時）目標再設定PDCA

2022年度は新型コロナ感染症の影響を受けながらも旅行に関する意識変化に伴う機運の高まりや全国旅行支援などの需要喚起策もあり一定の需要回復が見られた。2022年度の実績を踏まえて関係者と協議を行い、新型コロナウイルス感染症の第5類への移行に伴い、2023年度に2018年度の水準を超えることを目標として設定した上で、2024年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2008年度→2014年度の年平均成長率2.94%を超える前年対比3.0%の成長を見込んだ数値を新たに目標値として設定した。

2024年7月（第4期 事業報告時）目標再設定PDCA

2023年度は新型コロナ感染症の影響が収束し、国内観光およびインバウンドともに観光需要が大きく回復した。2023年度までの実績の傾向を踏まえて関係者と協議を行い、2024年度以降は2023年度実績をベースに新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2008年度→2014年度の年平均成長率2.94%を超える前年対比3.0%の成長を見込んだ数値を新たに2026年度までの目標値として設定した。

2025年7月（第5期 事業報告時）目標再設定PDCA

2024年度は、国内観光は横ばいだったもののインバウンド需要が伸長した。2025年度以降の目標値については、2024年度の直近の実績データを踏まえて、国内観光需要の維持およびインバウンド需要の拡大や大阪万博のイベント需要および白浜のパンダ返還などを関係者と協議の上で見直しを行い、事

務局で目標値の素案を作成、地域関係者と検討および調整を行い、これまでの目標設定と同じ対前年比 103%の水準で 2027 年度までの目標数値を再設定した。

●延べ宿泊者数

2020 年 10 月（第 1 期 事業開始当初）

首都圏・欧米豪の長期滞在型の顧客層をターゲットとしており、旅行消費額に最も直結する KPI と位置付けている。和歌山県観光統計調査に基づくと、2017 年度の対象エリアの延べ宿泊者数は 358 万人（内、インバウンド 25.4 万人）、同 2018 年度は 379 万人（内、インバウンド 24.5 万人）となっており、成長率は 106%（内、インバウンド 96%）となっている。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、過去の傾向を基にした目標値設定が困難であるが、2020 年度は 1～5 月の各種統計より 9 割減の見込みとしたうえで、2022 年度に 2018 年度の水準を超える目標として設定する。

2022 年 8 月（第 2 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2021 年度の実績を踏まえて関係者と協議を行い、2022 年度に 2018 年度の水準を超えることを目標として引き続き設定した上で、2023 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の 2017 年度→2018 年度の成長率 106%を前年対比の成長率として見込んだ数値を新たに目標値とし、またインバウンドについても同 106%の前年対比の成長率として見込んだ数値を新たに目標値とする。

2023 年 7 月（第 3 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2022 年度は新型コロナ感染症の影響を受けながらも旅行に関する意識変化に伴う機運の高まりや全国旅行支援などの需要喚起策もあり一定の需要回復が見られた。2022 年度の実績を踏まえて関係者と協議を行い、新型コロナウイルス感染症の第 5 類への移行に伴い、2023 年度に 2018 年度の水準を超えることを目標として引き続き設定した上で、2024 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の 2017 年度→2018 年度の成長率 106%を前年対比の成長率として見込んだ数値を新たに目標値とし、またインバウンドについても同 106%の前年対比の成長率として見込んだ数値を新たに目標値とする。

2024 年 7 月（第 4 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2023 年度は新型コロナ感染症の影響が収束し、国内観光およびインバウンドともに観光需要が大きく回復した。2023 年度までの実績の傾向を踏まえて関係者と協議を行い、2024 年度以降は 2023 年度実績をベースに新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の 2017 年度→2018 年度の成長率 106%を前年対比の成長率として見込んだ数値を新たに目標値とし、またインバウンドについても同 106%の前年対比の成長率として見込んだ数値を新たに目標値とした。

2025 年 7 月（第 5 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2024 年度は国内観光については横ばいだったもののインバウンド需要が大きく伸長した。2024 年度までの実績の傾向を踏まえて関係者と協議を行い、2025 年度以降は 2024 年度実績をベースに前年までに設定した目標値を維持しつつ、2027 年度については過去の計画と同じ 106%の前年対比の成長率として見込んだ数値を新たに目標値とした。

●来訪者満足度

2020 年 10 月（第 1 期 事業開始当初）

リピーター率や SNS・クチコミによるプロモーションに最も直結する KPI と位置付けている。

広域周遊の拠点となる南紀白浜観光協会（地域 DMO）と連携して、南紀白浜空港や観光施設等での対面または Web によるアンケート調査（2020 年度：889 件）を通じて、7 段階評価（大変満足・満足・やや満足・どちらともいえない・やや不満・不満・大変不満）で、大変満足・満足の割合について 80%以上を目標値とし、さらに毎年 1%ずつ向上させる。（参考：2018 年度南紀白浜観光協会アンケート大変満足・満足の割合：78.9%）

2022 年 8 月（第 2 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2021 年度の実績 (91.5%) を踏まえて関係者と協議を行い、2021 年度は 81%、2022 年度は 82%を当初は目標値として設定していたが、着地型旅行事業を通じた観光地としてのコンテンツ造成・魅力向上および受入体制の拡充により目標を大きく上回ったが、87.0%を維持する数値を 2024 年度までの目標値と再設定した。

2023 年 7 月（第 3 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2022 年度の実績 (90.1%) を踏まえて関係者と協議を行い、前年度と同様にフルオーダーメイド型の着地型旅行事業を通じた観光地としてのコンテンツ造成・魅力向上および受入体制の拡充により目標を大きく上回ったため、目標値を 90.0%に上方修正した上で、2025 年度までの目標値と再設定した。

2024 年 7 月（第 4 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2023 年度はフルオーダーメイド型の着地型旅行事業を通じたコンテンツ造成・魅力向上やオンデマンドバスの実証実験をはじめとする宿泊・交通・飲食・体験の磨き上げにより 2023 年度は目標を大きく上回った。2023 年度までの実績の傾向を踏まえて関係者と協議を行い、関係人口の創出などによるリピート率の向上などの要因で 2023 年度の実績が 98%と高いため、2024 年度以降の目標値については前年に策定した 90%を維持する方針で 2026 年度までの目標値と再設定した。

2025 年 7 月（第 5 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2024 年度はフルオーダーメイド型の着地型旅行事業を通じたコンテンツ造成・魅力向上やオンデマンドバスの実証実験をはじめとする宿泊・交通・飲食・体験の磨き上げにより例年通りの高い満足度を獲得して目標地を上回った。2024 年度までの実績の傾向を踏まえて関係者と協議を行い、関係人口の創出などによるリピート率の向上などを踏まえて、2025 年度以降の目標値については KPI として策定した 90%を維持する方針で 2027 年度までの目標値と再設定した。

●リピーター率

2020 年 10 月（第 1 期 事業開始当初）

首都圏のビジネス客をターゲットとしており、延べ宿泊者数に直結する KPI と位置付けている。空港や観光施設等での対面または Web によるアンケート調査等を通じて、5 段階評価（初めて・2 回目・3 回目・4 回目・5 回目以上）で、3 回目以上のリピーター割合で 50%以上を目標値とする。

但し、ターゲット顧客が従来の関西市場ではなく、首都圏・東北・海外といった新規マーケットからの誘客に注力するため、この 50%以上を毎年維持することを目標とする。（参考：2018 年度南紀白浜観光協会アンケート 3 回以上 49.8%）。

2022 年 8 月（第 2 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2021 年度の実績 (67.4%) を踏まえて関係者と協議を行い、新たなビジネス客やワーケーションなどの関係人口の増大により目標を大きく上回ったため、目標値を上方修正した上で、毎年 1.0%のさらなる改善を見込んだ数値を 2024 年度までの目標値と再設定した。

2023 年 7 月（第 3 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2022 年度の実績 (67.4%) を踏まえて関係者と協議を行い、旅行割などの割引キャンペーンの影響などを受けて新規来訪者の割合が増加して目標を下回ったが、新たなビジネス客やワーケーションなどの関係人口のさらなる増大により昨年度設定した目標は下げずにキープする数値を 2025 年度までの目標値として再設定した。

2024 年 7 月（第 4 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2023 年度は関係人口にターゲットを絞った誘客活動により顧客満足度が高まり前年実績を上回って目標値に近い実績で落着した。2023 年度までの実績の傾向を踏まえて関係者と協議を行い、新たなビジネス客やワーケーションなどの関係人口のさらなる増大により前年に策定した目標をキープおよび 1%ずつ向上する数値を 2026 年度までの目標値として再設定した。

2025年7月（第5期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2024年度は関係人口にターゲットを絞った誘客活動により顧客満足度を維持して目標値に近い実績で落着した。2024までの実績の傾向を踏まえて関係者と協議を行い、新たなビジネス客やワーケーションなどの関係人口のさらなる増大により前年に策定した目標をキープする数値を2027年度までの目標値として再設定した。

なお、来訪者満足度とリピーター率の外国人旅行者のデータ取得については、国内観光客と同数値を目標KPIとして設定している。今後の調査および目標値の設定については協議会で合意形成を図りながらPDCAサイクルの設計を実施する。

（2）その他の目標

指標項目		2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度	2026 (R 8) 年度	2027 (R 9) 年度
● WEB サイト アクセス状況 (人)	目標	500,000	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000
	実績	662,435	692,559	638,139			
●住民満足度 (%)	目標	98	98	98	98	98	98
	実績	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
●南紀白浜空港 旅客数 (万人)	目標	18.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0
	実績	23.1	23.0	23.1			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方**【検討の経緯】**

地域のコンセプト（将来ビジョン）である「関西の奥座敷から、世界のKii（紀伊）へ」を実現していくにあたり、ターゲット顧客である首都圏および欧米豪など従来の関西圏以外からの観光・ビジネスの誘客に注力して効果的なPDCAを回すために、その玄関口となる空港Webサイトへのアクセス数および空港の旅客数を指標項目として選定した。また、地域の合意形成を着実に図っていくためには地域の将来ビジョンを関係者と共有した上でそのアクションや結果に関する住民の理解や協力が重要なため、住民満足度も指標項目として選定している。

各種データを収集・分析を行い、その結果をもとに当社（事務局）で目標値の素案を作成し、地域関係者で協議の上で2021年度以降の目標値を決定した。

【設定にあたっての考え方】**●WEB サイトのアクセス状況****2020年10月（第1期 事業開始当初）**

ターゲット顧客である首都圏および欧米豪など従来の関西圏以外からの観光・ビジネスの旅行者は南紀白浜空港を主に利用して来訪する。その空の玄関口である南紀白浜空港のウェブサイトのアクセス数をKPIとしてすることで、各戦略・施策の効果を測定する。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、過去の傾向を基にした目標値設定が困難であり、実際に減便・機材小型化・運休等によ

る大幅な減少の影響（1～5 月で 9 割減）を受けていたが、2022 年度には 2019 年度の水準を超えることを目標として設定する。

2022 年 8 月（第 2 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2021 年度の実績を踏まえて関係者と協議を行い、目標値は維持したまま、2024 年度まで 50 万アクセスの目標値として再設定した。

2023 年 7 月（第 3 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2022 年度の実績を踏まえて関係者と協議を行い、観光客数の回復とワーケーションなど関係人口の新たな創出により空港の旅客数とともに Web サイトのアクセス数も増加して目標値を上回った。今後も観光客数・インバウンドの回復やワーケーションなど関係人口の創出は継続するが、便数が増えないと空港利用者も今の勢いのまま増やすことは困難なため、現状のアクセス数を少し上回る 70 万アクセスを 2025 年度までの目標値として再設定した。

2024 年 7 月（第 4 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2023 年度は観光客・インバウンドの回復やワーケーションなど関係人口の新たな創出により空港の旅客数とともに Web サイトのアクセス数も増加してほぼ目標値通りで落着した。2023 年度までの実績を踏まえて関係者と協議を行い、今後も観光客数・インバウンドの回復やワーケーションなど関係人口の創出は継続するが、便数が増えないと空港利用者も同様に増加させることは困難であり、情報発信については SNS 発信も増やしているため、現状のアクセス数を維持する 70 万アクセスを 2026 年度までの目標値として再設定した。

2025 年 7 月（第 5 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2024 年度は観光客が横ばいの中で空港としてはインバウンドの獲得が遅れていることから空港の旅客数は横ばいで、Web サイトのアクセス数も微減して目標値にやや届かずに落着した。2024 年度までの実績を踏まえて関係者と協議を行い、今後も観光客数・インバウンドの獲得やワーケーションなど関係人口の創出は継続するが、便数が増えないと空港利用者も同様に増加させることは困難であり、情報発信については SNS 発信も増やしているため、現状のアクセス数から増加させる 70 万アクセスを 2027 年度までの目標値として再設定した。

●住民満足度

2020 年 10 月（第 1 期 事業開始当初）

地域の合意形成を着実に図っていくためには地域の将来ビジョンを関係者と共有した上でそのアクションや結果に関する住民の理解や協力が重要なため、住民満足度も指標項目として選定している。

2020 年 7 月より月次で開催している地域ビジョン共有ワークショップ（南紀白浜/和歌山ビジョンミーティング：県知事・町長から自治体・地域 DMO・観光事業者をはじめ、農家・IT 企業・銀行・学校・学生・シニアなど一般住民がこれまで累計約 3,000 名参加しているタウンミーティング）の満足度を調査。

2022 年 8 月（第 2 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2021 年度の実績を踏まえて関係者と協議を行い、目標値は維持したまま、同様の高い満足度 98% を目標値として設定した。

2023 年 7 月（第 3 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2022 年度の実績を踏まえて関係者と協議を行い、過去から満足度の高さは維持できたままでいるため、目標値は維持したまま、同様の高い満足度 98% を目標値として設定した。

2024 年 7 月（第 4 期 事業報告時）目標再設定 PDCA

2023年度の実績はリピート参加者が多いこともあり例年通りの満足度の高さを維持できた。2023年度までの実績を踏まえて関係者と協議を行い、2024年度以降もこれまでと同様に高い満足度98%を目標値として設定した。

2025年7月（第5期事業報告時）目標再設定PDCA

2024年度の実績はリピート参加者が多いこともあり例年通りの満足度の高さを維持できた。2024年度までの実績を踏まえて関係者と協議を行い、2025年度以降もこれまでと同様に高い満足度98%を目標値として設定した。

●南紀白浜空港旅客数

2020年10月（第1期事業開始当初）

ターゲット顧客である首都圏および欧米豪など従来の関西圏以外からの観光・ビジネスの旅行者は南紀白浜空港を主に利用して来訪する。南紀白浜空港の旅客数をKPIとして、各戦略・施策の効果を測定する。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、過去の傾向を基にした目標値設定が困難であり、実際に減便・機材小型化・運休等による大幅な減少の影響（1～5月で9割減）を受けているが、2022年度には2019年度の水準を超えることを目標として設定する。

2022年8月（第2期事業報告時）目標再設定PDCA

2021年度の実績を踏まえて関係者と協議を行い、2022年度には2019年度（17.7万人）の水準を超える20.0万人の目標値を設定していたが、新たなビジネス客やワーケーション・関係人口の増大により平日需要を中心底上げが見られたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による航空需要の回復の遅れを反映して2023年度に20.0万人を目標値として設定するとともに、2022年度の目標値については2019年度（17.7万人）を上回る過去最高値の18.0万人に下方修正を行った上で、確実な目標達成に向けて関係者との合意形成・連携を強化する。

2023年7月（第3期事業報告時）目標再設定PDCA

2022年度の実績を踏まえて関係者と協議を行い、新たなビジネス客やワーケーション・関係人口の増大により平日需要を中心底上げが見られ、2月度には期間限定で4便化も実現したこともあり、過去最高旅客数の23.1万人と目標を大きく上回った。今後も観光客数・インバウンドの回復やワーケーションなど関係人口の創出は継続するが、便数が増えないと空港利用者も今の勢いのまま増やすことは困難なため、期間限定の4便化の影響を除いた需要に少し上乗せする形で、現状と同水準の旅客数23万人を2025年度までの目標値として再設定した。

2024年7月（第4期事業報告時）目標再設定PDCA

2023年度は新たなビジネス客やワーケーション・関係人口の増大により平日需要を中心底上げが見られたが、昨年度と比較すると臨時増便（昨年は2月に1か月間の4便化）がなかったり、悪天候による欠航回数が増えたことにより前年並みの実績で落着した。2023年度までの実績を踏まえて関係者と協議を行い、2024年度以降は観光客数・インバウンドの回復やワーケーションなど関係人口の創出は継続するが、便数が増えないと空港利用者の増加は困難なため、現状と同水準の旅客数23万人の維持を2026年度までの目標値として再設定した。

2024年7月（第5期事業報告時）目標再設定PDCA

2024年度は新たなビジネス客やワーケーション・関係人口の増大により平日需要を中心底上げが見られたが、インバウンドは空港としては取り込みが遅れており、前年並みの実績で落着した。2024年度までの実績を踏まえて関係者と協議を行い、2025年度以降は観光客数・インバウンドの獲得やワーケーションなど関係人口の創出は継続するが、便数が増えないと空港利用者の増加は困難なため、現状と同水準の旅客数23万人の維持を2027年度までの目標値として再設定した。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に（1）収入、（2）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

（1）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（R 4） 年度	60,433,003（円）	【収益事業】60,433,003円 【国からの補助金】0円 【都道府県からの補助金】0円 【市町村からの補助金】0円 【公物管理受託】0円 【会費】0円 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】0円
2023（R 5） 年度	77,460,129（円）	【収益事業】77,460,129円 【国からの補助金】0円 【都道府県からの補助金】0円 【市町村からの補助金】0円 【公物管理受託】0円 【会費】0円 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】0円
2024（R 6） 年度	60,023,051（円）	【収益事業】60,023,051円 【国からの補助金】0円 【都道府県からの補助金】0円 【市町村からの補助金】0円 【公物管理受託】0円 【会費】0円 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】0円
2025（R 7） 年度	70,000,000（円）	【収益事業】70,000,000円 【国からの補助金】0円 【都道府県からの補助金】0円 【市町村からの補助金】0円 【公物管理受託】0円 【会費】0円 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】0円
2026（R 8） 年度	80,000,000（円）	【収益事業】80,000,000円 【国からの補助金】0円 【都道府県からの補助金】0円 【市町村からの補助金】0円 【公物管理受託】0円 【会費】0円 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】0円
2027（R 9） 年度	90,000,000（円）	【収益事業】90,000,000円 【国からの補助金】0円 【都道府県からの補助金】0円 【市町村からの補助金】0円 【公物管理受託】0円 【会費】0円

		【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】0円
--	--	------------------------

(2) 支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（R 4） 年度	41,329,532（円）	【旅行仕入】30,506,313円 【人件費】9,078,614円 【営業・マーケティング】657,514円 【情報発信・プロモーション】0円 【一般管理費】1,087,091円
2023（R 5） 年度	53,386,078（円）	【旅行仕入】34,448,295円 【人件費】16,128,036円 【営業・マーケティング】1,222,798円 【情報発信・プロモーション】0円 【一般管理費】1,586,949円
2024（R 6） 年度	36,032,206（円）	【旅行仕入】17,010,409円 【人件費】14,791,993円 【営業・マーケティング】1,307,333円 【情報発信・プロモーション】300,017円 【一般管理費】2,622,454円
2025（R 7） 年度	48,000,000（円）	【旅行仕入】25,000,000円 【人件費】18,000,000円 【営業・マーケティング】1,500,000円 【情報発信・プロモーション】1,000,000円 【一般管理費】2,500,000円
2026（R 8） 年度	52,000,000（円）	【旅行仕入】27,000,000円 【人件費】20,000,000円 【営業・マーケティング】1,500,000円 【情報発信・プロモーション】1,000,000円 【一般管理費】2,500,000円
2027（R 9） 年度	57,000,000（円）	【旅行仕入】30,000,000円 【人件費】22,000,000円 【営業・マーケティング】1,500,000円 【情報発信・プロモーション】1,000,000円 【一般管理費】2,500,000円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

当該 DMO 法人は 2019 年 6 月より紀伊トラベル（和歌山県知事登録第 2-317）の名称で旅行業登録をしている。ターゲット顧客のニーズに即したオーダーメイド型を基本とした宿泊・交通・飲食・体験プランおよびそれらのツアー商品を造成・販売することで、自主事業による自律的・継続的な運営資金を確保している。販売チャネルは、提案営業活動による直販や B2B 販売を中心に、自治体・観光事業者など地域関係者からの紹介、空港の観光案内所ほかウェブサイトやメディア発信を主としている。また、旅行事業以外の地域活性化事業（多言語翻訳サービスや感染症対策ソリューション、地域活性化に関するアドバイザリー等）でも自主事業収入を得ており、2021 年度以降は DMO 登録初年度を除いて 4 期連続で補助金に頼らない安定的な黒字自走化を果たしている。

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

株式会社南紀白浜エアポートは民営化された南紀白浜空港の運営会社として、「空港型地方創生」を通じた新しい地域活性化モデルの創出とその実現を担う民間企業として大きな役割を担っている。これまでも首都圏・欧米豪からの新しい誘客の仕組みづくりや、地域受入体制の拡充、観光人材育成等の観光地域づくりと地域経済活性化の一翼を担ってきた。これまでの地域マネジメント・マーケティング活動をより大きな取り組みとすべく、和歌山県は株式会社南紀白浜エアポートを当該県及び市町村における地域連携DMOとして登録したいので、株式会社南紀白浜エアポートとともに申請します。（和歌山県 港湾空港振興課）

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

エリアが重複する地域DMOである田辺市熊野ツーリズムビューロー・南紀白浜観光協会・那智勝浦観光機構とは、着地型旅行事業による日常的な連携や地域DMOへの理事就任、共同プロモーションや意見交換により合意形成および役割分担等について日常的に事業連携しているとともに、年4回以上の協議を実施。

【区域が重複する背景】

南紀・熊野の広域エリアでの周遊・長期滞在を拡大していくためには、各市町村単位の個別の取り組みだけではなく、各地域DMOと連携しながら市町村を横断的して地域マーケティング・マネジメントを実施する必要であるため。

【重複区域における、それぞれのDMOの役割分担について】

田辺市熊野ツーリズムビューロー：熊野地域のプロモーション、BtoCを主とした着地型旅行事業
当DMO：白浜および熊野エリアを含む広域プロモーション、BtoBを主とした着地型旅行事業

南紀白浜観光協会：白浜エリアのプロモーション、関西圏の観光客を中心とした誘客・地域活性化
当DMO：白浜および熊野エリアを含む広域プロモーション、首都圏のビジネス客を中心とした誘客・地域活性化

那智勝浦観光機構：那智勝浦エリアのプロモーション、観光客を中心とした誘客・地域活性化
当DMO：白浜および熊野エリアを含む広域プロモーション、ビジネス客を中心とした誘客・地域活性化

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

各地域 DMO と日常的に連携しながら、プロモーションやツアー造成・手配、受入体制の拡充などに取り組んでおり、広域周遊における効率的・効果的な活動の遂行を実現している。

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	森重 良太
担当部署名（役職）	（株）南紀白浜エアポート 誘客・地域活性化室長
郵便番号	649-2334
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町才野 1622 番地の 125
電話番号（直通）	0739-43-0095
FAX番号	0739-43-0091
E-mail	r.morishige@nsap.co.jp

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	和歌山県
担当者氏名	庄堂 雄紀
担当部署名（役職）	港湾空港振興課 副主査
郵便番号	640-8585
所在地	和歌山県和歌山市小松原通 1-1
電話番号（直通）	073-441-3155
FAX番号	073-433-4839
E-mail	shodo_y0001@pref.wakayama.lg.jp

都道府県・市町村名	和歌山県
担当者氏名	米田 拓司
担当部署名（役職）	地域振興部 観光局長
郵便番号	640-8585
所在地	和歌山県和歌山市小松原通 1-1
電話番号（直通）	073-441-2717
FAX番号	073-432-8313
E-mail	yoneda_t0005@pref.wakayama.lg.jp

都道府県・市町村名	印南町
担当者氏名	平田 雅規
担当部署名（役職）	企画産業課 課長

郵便番号	649-1534
所在地	和歌山県日高郡印南町大字印南 2570
電話番号（直通）	0738-42-1737
FAX番号	0738-42-1703
E-mail	hirata01@town.wakayama-inami.lg.jp

都道府県・市町村名	みなべ町
担当者氏名	井出 輝美
担当部署名（役職）	うめ課 主事
郵便番号	645-0002
所在地	和歌山県日高郡みなべ町芝 742 番地
電話番号（直通）	0739-33-9310
FAX番号	0739-72-1223
E-mail	ide.te@town.minabe.lg.jp

都道府県・市町村名	田辺市
担当者氏名	佐向 大輝
担当部署名（役職）	観光振興課 主査
郵便番号	646-8545
所在地	和歌山県田辺市新屋敷町 1 番地
電話番号（直通）	0739-26-9929
FAX番号	0739-22-9903
E-mail	sako.d@city.tanabe.lg.jp

都道府県・市町村名	白浜町
担当者氏名	尾野 和久
担当部署名（役職）	観光課 副課長
郵便番号	649-2211
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町 1600 番地
電話番号（直通）	0739-43-6588
FAX番号	0739-43-7825
E-mail	k.ono@town.shirahama.lg.jp

都道府県・市町村名	上富田町
担当者氏名	芝 健治
担当部署名（役職）	振興課 課長
郵便番号	649-2192
所在地	和歌山県西牟婁郡上富田町朝来 763

電話番号（直通）	0739-47-0550
FAX番号	0739-47-4005
E-mail	siba@town.kamitonda.lg.jp

都道府県・市町村名	すさみ町
担当者氏名	赤堀 英毅
担当部署名（役職）	産業振興課 課長
郵便番号	649-2621
所在地	和歌山県西牟婁郡すさみ町周参見 4089
電話番号（直通）	0739-55-4805
FAX番号	0739-55-4810
E-mail	akahori_h01@town.susami.lg.jp

都道府県・市町村名	那智勝浦町
担当者氏名	山口 剛史
担当部署名（役職）	観光企画課 主幹
郵便番号	649-5392
所在地	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町大字築地 7-1-1
電話番号（直通）	0735-52-2131
FAX番号	0735-52-3011
E-mail	kanko06@town.nachikatsuura.lg.jp

都道府県・市町村名	太地町
担当者氏名	山下 真一
担当部署名（役職）	産業建設課 課長
郵便番号	649-5171
所在地	和歌山県東牟婁郡太地町大字太地 3767-1
電話番号（直通）	0735-59-2335
FAX番号	0735-59-2801
E-mail	kankou@town.taiji.lg.jp

都道府県・市町村名	古座川町
担当者氏名	谷岡 翔
担当部署名（役職）	地域振興課 主事
郵便番号	649-4104
所在地	和歌山県東牟婁郡古座川町高池 673-2
電話番号（直通）	0735-72-0180
FAX番号	0735-72-1858

E-mail	tanioka-001@town.kozagawa.lg.jp
--------	---------------------------------

都道府県・市町村名	北山村
担当者氏名	村林 卓郎
担当部署名（役職）	企画振興課
郵便番号	647-1604
所在地	和歌山県東牟婁郡北山村下尾井 335
電話番号（直通）	0735-49-2331
FAX番号	0735-49-2207
E-mail	kikaku@vill.kitayama.lg.jp

都道府県・市町村名	串本町
担当者氏名	阪本 祥
担当部署名（役職）	産業課 主査
郵便番号	649-3592
所在地	和歌山県東牟婁郡串本町串本 1800
電話番号（直通）	0735-62-0557
FAX番号	0735-62-6970
E-mail	sho.sakamoto@town.kushimoto.lg.jp

都道府県・市町村名	新宮市
担当者氏名	須川 康宏
担当部署名（役職）	商工観光課 係長
郵便番号	647-8555
所在地	和歌山県新宮市春日 1 番 1 号
電話番号（直通）	0735-23-3357
FAX番号	0735-21-5422
E-mail	y-sugawa@city.shingu.lg.jp

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

和歌山県紀南エリア(印南町、みなべ町、田辺市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町、新宮市)

【設立時期】 2018年5月28日

【設立経緯】

④区域に複数の地域DMOや観光協会があるが市町村単位のため、行政区画を超えて広域連携するために役割分担等をした上でDMO新設

【代表者】 岡田 信一郎

【マーケティング責任者(CMO)】 森重 良太

【財務責任者(CFO)】 森重 良太

【職員数】 5人(常勤5人(正職員3人・出向等2人)、非常勤0人)

【主な収入】

収益事業 60百万円、補助金 0百万円(2024年度決算)

【総支出】

事業費 33百万円、一般管理費 3百万円(2024年度決算)

【連携する主な事業者】

南紀白浜観光協会、熊野ツーリズムビューロー、那智勝浦観光機構

戦略

【主なターゲット】

- ①首都圏からのビジネス客
- ②首都圏からの観光客
- ③欧米豪からのインバウンド

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

- ①ワーケーションやIT企業のビジネス誘致による関係人口の創出
- ②温泉・ビーチ・パンダなど非日常資源による富裕層の誘致
- ③世界遺産熊野古道による知的層の誘致

【観光地域づくりのコンセプト】

関西の奥座敷から、世界のKii(紀伊)へ

KPI(実績・目標)

記入日: 令和7年7月21日

※()内は外国人に関するもの。

項目		2022 (R4)年度	2023 (R5)年度	2024 (R6)年度	2025 (R7)年度	2026 (R8)年度	2027 (R9)年度
旅行 消費額 (百万円)	目標	270,000 (9,000)	270,000 (9,000)	241,060 (7,800)	248,290 (8,030)	255,740 (8,270)	263,410 (8,520)
	実績	212,047 (877)	234,042 (7,568)	243,632 (10,881)	—	—	—
延べ 宿泊者数 (千人)	目標	4,000 (250)	4,000 (250)	3,530 (265)	3,740 (280)	3,960 (300)	4,200 (320)
	実績	3,077 (24)	3,335 (206)	3,457 (297)	—	—	—
来訪者 満足度 (%)	目標	87.0 (87.0)	90.0 (90.0)	90.0 (90.0)	90.0 (90.0)	90.0 (90.0)	90.0 (90.0)
	実績	90.1 (-)	98.1 (-)	97.2 (-)	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	59.0 (59.0)	60.0 (60.0)	60.0 (60.0)	60.0 (60.0)	60.0 (60.0)	60.0 (60.0)
	実績	56.5 (-)	59.4 (-)	56.8 (-)	—	—	—

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

- ・ワーケーションの聖地として、地域の社会課題をテーマとした新たなご当地プログラムを開発
- ・地域まるごとDXとして、地域13施設が連携して顔認証を活用した手ぶら顔パス旅行の実証実験を実施

【受入環境整備】

- ・ワーケーションの聖地として、長期滞在型の宿泊プランやワーキングプレイスなどを整備
- ・オンデマンドバスの実証実証

【情報発信・プロモーション】

- ・ワーケーションの聖地として、企業の経営層向けモデルツアーや全国規模の地域交流イベントを開催
- ・首都圏の企業や旅行代理店・人事研修会社などに対して課題解決型の提案営業を実施

【その他】

- ・地域の将来像を市民参加型で描くビジョンミーティングを毎月開催
- ・地域人材の育成に向けて実践型の研修やワークショップを開催

